

名古屋大学教員のための留学生受け入れハンドブック

名古屋大学教員のための  
**留学生受け入れ  
ハンドブック**



名古屋大学教員のための  
留学生受け入れハンドブック



# 目 次

はしがき	10
1. 名古屋大学で学ぶ留学生の概要	12
2. 留学生の受け入れに関するQ&A	17
2-1. 受け入れ手続きを行う	17
2-2. 日本の生活への適応を促す	25
2-3. 学習を支援する	40
2-4. 研究指導を行う	47
3. 名古屋大学の教員からのメッセージ	60
3-1. 留学生を受け入れる際に留意していること	60
3-2. 留学生へのメッセージ	63
4. 留学生を受け入れる際の参考情報	68
4-1. 入学前の受け入れ手続きについて	68
4-2. 日常生活について	71
4-3. 授業や研究指導について	76
あとがき	81

## 留学生の受け入れに関するQ&A 質問一覧

---

### 2-1. 受け入れ手続きを行う

- Q1 留学志望者の日本語能力をどうチェックすればよいか。…………… 17
- Q2 記載された学歴が正確なものかどうか、申請段階で  
どうチェックすればよいか。…………… 17
- Q3 志望学生の出身大学のレベルを確認するのが困難だが、  
どうしたらよいか。…………… 18
- Q4 研究計画書を自分で書いていないと思われるものがある。  
どうやって見なければよいか。…………… 19
- Q5 留学生の身元引受人や出身大学の推薦書等の信頼性が  
疑われるときは、どうやって確認すればよいか。…………… 19
- Q6 授業料や生活費の支払い能力があるかどうか、どうやって  
確認すればよいか。…………… 19
- Q7 メールでやりとりしても、研究生を受け入れるべきかどうか  
判断がつかない。たくさんの希望者から依頼が来て、  
誰を受け入れるかで悩んでいる。…………… 20
- Q8 入学検定料の送金方法をどうしたらいいのか？  
留学生にとって為替の作成は容易でないと思うが。…………… 21
- Q9 留学生にチューターをつけられると聞いたが、  
どのような学生をチューターに任用すればよいか。…………… 21
- Q10 留学生のチューターに適任の日本人学生が見つからなくて  
困る場合が多い。…………… 22
- Q11 研究生として入学したら、自動的に大学院の試験に合格できると  
考えている留学生がいる。どのように対応するのが適切か。… 23
- Q12 他大学の大学院受験を勧めたが、転学を受け入れがたい  
ようである。…………… 23

Q13	大学院入試に不合格であった留学生を、次年度の研究生として受け入れ延長すべきか。 ……………	24
Q14	留学生を（4月、10月以外の時期に）3ヶ月受け入れるが、宿舎をどうしたらよいか。 ……………	24
Q15	留学生を受け入れたいが、入学前に申し込める奨学金はあるか。 ……………	25

## 2-2. 日本の生活への適応を促す

Q16	奨学金を受給できると期待して入学したために、不採択になって困窮している私費留学生がいる。どのように対応すればよいか。 ……………	25
Q17	留学生がアルバイトを優先して、研究活動が停滞している。 ……	26
Q18	留学前には経済的な問題はないと主張するが、留学後に経済的な困難さを強く訴える留学生がいる。 ……………	27
Q19	病気や事故などの突発的な事由により、経済的に困っている留学生がいる。 ……………	29
Q20	日本人学生との日常的な交流ができるように研究室でさまざまな行事を行っているが、経済的理由からコンパやゼミ旅行などに留学生の参加が難しい場合がある。 ……………	29
Q21	留学生からアパートの保証人になるのを頼まれた。 ……………	29
Q22	私費留学生用に、家賃が安く日本語の得意でない学生を受け入れてくれる住居を研究室で探さなければならない。 ……………	30
Q23	アパートでの苦情を大学に持ち込まれたことがある。 ……………	30
Q24	留学生がアパートを退去するときに後始末をきちんとしないケースがある。また、帰国後に廃車手続きが完了していなかったケースがあった。 ……………	31
Q25	留学生が交通違反をして、警察から出頭命令が届いた。その際に、通訳として指導教員にも出頭依頼があった。 ……………	31

Q26	留学生が精神的な問題を抱えているようで、指導教員にあまり話したがらない。 .....	32
Q27	留学生が研究指導の内容をなかなか理解しないのでおかしいと思っていたら、中等度の難聴だったことが判明した。どのように対応すればよいか。 .....	32
Q28	イスラム圏からの学生が複数いるので、研究室内で祈りの場所を用意してほしいと言われた。 .....	32
Q29	留学生によっては宗教的理由により食べられない食物がある。 ..	33
Q30	私が受け入れた留学生は、困っていることやわからないことを、なかなか話してくれなかった。 .....	33
Q31	奨学金申請のための推薦書を書くのにかなりの時間を取られる。 .....	34
Q32	友人関係について悩んでいる留学生は多い。 日本人学生は冷たいと考える留学生もおり、友人関係、 学術コミュニティを形成しづらい。 .....	34
Q33	一時帰国から戻った留学生がお土産を持ってきてくれた。 受け取ってよいのだろうか。 .....	35
Q34	書類提出の期限などを守れない留学生がいる。 .....	35
Q35	授業料を滞納している留学生がいる。 .....	36
Q36	留学生が、在留資格を「家族滞在」または「日本人の配偶者」 に切り替えたいと言っているが、どんなことに注意を すればよいのか。 .....	36
Q37	留学生が留年すると在留資格や奨学金、授業料免除などに 影響するのか。 .....	37
Q38	母国にいる家族が病気になったので、突然帰国したいと 留学生からメールがあった。 すぐに携帯に電話してみたがつかない。 .....	37



Q39	留学生から妊娠しているとの報告があった。 指導教員としてどう対応すればよいか。……………	38
Q40	留学生から子どもを保育園に行かせたいと相談を受けた。……	38
Q41	留学生から、自分の親を日本に招聘するための保証人になっ てほしいと頼まれたが、どうしたらよいか?……………	39
Q42	留学生が日本で就職したいと言っているが、 就職に関する情報をどこで入手できるか。……………	40

### 2-3. 学習を支援する

Q43	授業の前提となる留学生の基礎学力にばらつきが大きい。……	40
Q44	たびたび授業を欠席する留学生がいる。……………	41
Q45	友だちがいないのか、レポート、試験、掲示や レポート課題に気づかない留学生がいる。……………	41
Q46	TAは単なるアルバイトであるという認識を持っている 留学生がいる。……………	42
Q47	授業内容を理解するための日本語能力が不足している 留学生がいる。……………	42
Q48	ディスカッションで英語・日本語を繰り返して二度手間に なってしまう、時間のロスが大きい。 英語のよくわからない日本人学生、日本語のよくわからない 留学生を同時に教えるのに苦労している。……………	43
Q49	研究生の場合、聴講という感覚で授業に出ている人がおり、 出席が気まぐれになりやすい。……………	43
Q50	報告や議論という演習形式に慣れていない留学生がいる。……	43
Q51	授業中のディスカッションで留学生の日本語表現力が 不十分だと感じる。……………	45

- Q52** 留学生にとって政治的に微妙な問題について  
他の学生が質問したり、問題提起した時に、  
教員としてどのように対応すればよいか? ..... 45
- Q53** 留学生から「先生の話し方はわかりにくい」と言われた。 ..... 46
- Q54** 受講生が多数いるなかで、留学生が授業内容を理解して  
いるかを個別に確認することは難しい。どうしたらよいか。 .... 47
- Q55** 授業中に帽子をかぶったままの留学生がいる。  
注意してよいのだろうか。 ..... 47
- Q56** 留学生から、旧正月の前に帰国したいと言われた。  
まだ後期の授業が残っているし、期末試験もある。  
どうしたらよいか。 ..... 47

## 2-4. 研究指導を行う

- Q57** 研究室内のメンバーの英語レベルに差があり、  
コミュニケーションがうまく取れないことが多々ある。  
日本人大学院生の英語能力が必ずしも十分ではないので、  
学生間のコミュニケーションがうまくいかない。 ..... 48
- Q58** 個々の大学院生に対する研究指導が不公平だと  
留学生から指摘された。 ..... 49
- Q59** なかなか指導教員に会えないとの苦情が留学生から  
寄せられている。どう対応したらよいか? ..... 49
- Q60** 同じ研究室内で留学生と日本人学生の間に異性関係の  
トラブルがあった。どのように対応すればよいか。 ..... 50
- Q61** 留学生が研究室のなかで孤立しがちである。  
どうしたらよいか。 ..... 51
- Q62** 子どもの世事に忙しかったり、病気がちだったりして、  
勉学時間が十分とれない留学生がいる。 ..... 51

Q63	留学生が休学をしたいと言っている。 どのように対応すればよいか。 ……………	52
Q64	研究計画書に書かれた内容と来日後に本人が希望する 研究内容が異なっている。 ……………	52
Q65	受験時や入学時の意気込みとその後の差が大きく、 なかなか研究がスムーズに進まない留学生がいる。 ……………	53
Q66	博士後期課程の留学生には3年間で確実に学位を出すことを 優先するので、おのずと研究テーマが限られてしまう。 ……………	54
Q67	別の教員から引き継いだ留学生については、 前任者と私の研究指導方法に関する考え方の違いから、 留学生を少し戸惑わせてしまったようだ。 ……………	54
Q68	学位をとれないのは指導教員の責任であるという意識を もつ留学生がいた。 ……………	55
Q69	できていないことでも「できた」と答えるなど、 その場限りの返事をしがちな留学生が見受けられる。 ……………	55
Q70	日本になじまないような態度を遠慮なく見せる留学生がいる。 日本人学生がやや不快に受け取ることもある。 受け入れ教員としてどの程度指導すべきか。 ……………	55
Q71	何でもメールで済ませようとする留学生がいる。 ……………	56
Q72	「なんでもとりあえずコピーする」という姿勢の留学生がいる。 ……	56
Q73	専門分野の研究手法を身につけていない留学生がいる。 ……………	57
Q74	一定水準の知識はあるのだが、自分で考える習慣に乏しい 留学生がいる。受身的な学習は得意だが、自主的に研究を させようとする、困惑してしまう場合がみられる。 ……………	57
Q75	先行研究がないと安易に断定する留学生がいる。 先行研究を踏まえて論を立てていくことに困難を感じて いるようである。 ……………	59

## はしがき

名古屋大学が国際的な教育・研究環境を形成する上で、留学生は重要な役割を果たしています。留学生生活を成功させることは、彼ら自身のキャリア形成や母国の発展をもたらすのみならず、名古屋大学の教育・研究成果を高めることにつながります。教職員や日本人学生にとっても、留学生と接することは貴重な異文化体験となり、さまざまな知的刺激を得られるとともに、自らの視野を広げることにつながります。

同時に、留学生の受け入れには今日においてもさまざまな課題が存在します。このハンドブックは名古屋大学の教員有志によって立ち上げた留学生研究会で作成しました。本冊子は、教員と留学生が信頼関係を築く上で参考になるとと思われるアドバイスや各種情報をまとめたものです。そのねらいは次の3つです。

- ・留学生受け入れに必要な基礎知識を提供する
- ・他の教員の留学生受け入れノウハウを紹介する
- ・留学生の受け入れに参考となる情報源を紹介する

このハンドブックの中心部分は留学生受け入れに関するQ&Aです。本書の制作に先立ち、2010年8月に学内教員を対象として留学生の受け入れに関するオンラインアンケートを実施しました。これにより、留学生の入学手続きや日常生活、彼らに対する授業や研究指導などにおいて、本学の教員がさまざまな課題に直面し、試行錯誤していることがわかりました。また、ベテラン教員が長年にわたって蓄積してこられた留学生受け入れ上の経験や工夫は、中堅・若手教員に必ずしも十分に共有されていないということもわかりました。

同研究会ではこうした課題を場面別に整理した上で、留学生相談室や各部局の留学生担当教員としての経験を活用しながら、各教員が日常の教育現場においてどのように対応すればよいかという観点からアドバイスを作成しました。その際に、留学生と接する上で参考になる異文化間コミュニケーション学や高等教育学の知見を盛り込みました。

名古屋大学教員のみなさまにとって、本書が留学生を受け入れる際の参考になれば幸いです。本書にはまだまだ不十分な点があるかと思います。今後の改善に活かすため、いろいろご意見をお聞かせください。

名古屋大学留学生研究会

# 1. 名古屋大学で学ぶ留学生の概要

最初に名古屋大学で学んでいる外国人留学生の概況をご紹介します。図1は留学生の出身国・地域を示したものです。名古屋大学には75カ国・地域から1,665人の留学生が学んでいます（以下の留学生データは、いずれも2010年11月1日現在）。このうち86.3%（1,437人）をアジア人留学生が占めています。最も多いのは中国人留学生で全体の53.2%を占めます。次いで韓国、インドネシア、台湾、マレーシア、ベトナム、カンボジア、ウズベキスタン、バングラデシュ、タイの順となっています。

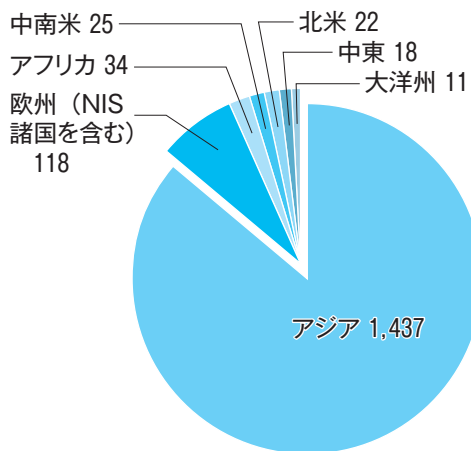


図1 名古屋大学に在籍する外国人留学生の出身国・地域

## 【アジア】

中国 886、韓国 145、インドネシア 57、台湾 52、マレーシア 48、ベトナム 46、カンボジア 44、バングラデシュ 34、タイ 25、ラオス 21、インド 17、フィリピン 15、ミャンマー 13、モンゴル 12、ネパール 10、スリランカ 8、パキスタン 4

### 【欧州】

ウズベキスタン 39、ドイツ 16、フランス 10、ポーランド 9、イギリス 7、ロシア 6、ハンガリー5、カザフスタン 3、スウェーデン 3、ブルガリア 3、ルーマニア 3、アゼルバイジャン 2、キルギス 2、スペイン 2、アイルランド 1、アルバニア 1、アルメニア 1、オランダ 1、クロアチア 1、スロバキア 1、セルビア 1、タジキスタン 1

### 【アフリカ】

ケニア 8、エジプト 8、エチオピア 3、モザンビーク 2、マダガスカル 2、ガーナ 2、マラウイ 1、ナイジェリア 1、チュニジア 1、タンザニア 1、スーダン 1、シエラレオネ 1、コンゴ 1、カメルーン 1、ガボン 1

### 【中南米】

ブラジル 12、ペルー2、ボリビア2、メキシコ2、アルゼンチン1、エクアドル1、グアテマラ1、ドミニカ1、パナマ1、パラグアイ1、ホンジュラス1

### 【北米】

アメリカ 17、カナダ 5

### 【中東】

トルコ 9、イラン 6、イスラエル 1、シリア 1、バーレーン 1

### 【大洋州】

オーストラリア 8、パプアニューギニア 2、ニュージーランド 1

備考：上記の地域分類は名古屋大学の統計に基づく。

次に、留学生の所属部局をみてみましょう（表1）。文系・理系を問わず、さまざまな専門分野に留学生が在籍しています。学士課程（研究生を除く）の留学生数は160人で、学士課程在籍者数（9,700人）に占める割合は1.6%です。これに対し、大学院課程（研究生を除く）の留学生は1,033人で、大学院課程在籍者数（6,154人）に占

める割合は16.8%です。このように、名古屋大学では学士課程と比べて大学院課程の留学生割合が高いのが特徴です。

表1 留学生の所属部局と所属課程

所属部局	学士課程		大学院課程		小計
	学生	研究生等	学生	研究生等	
文学研究科・文学部	17	58	60	5	140
教育発達科学研究科・教育学部	9	25	35	3	72
法学研究科・法学部	6	23	100	29	158
経済学研究科・経済学部	21	23	61	7	112
情報文化学部	2	26	-		28
理学研究科・理学部	3	9	40	8	60
医学系研究科・医学部	2	0	79	10	91
工学研究科・工学部	94	71	206	19	390
生命農学研究科・農学部	6	7	35	4	52
国際開発研究科	-		139	37	176
多元数理科学研究科	-		5	0	5
国際言語文化研究科	-		101	46	147
環境学研究科	-		112	20	132
情報科学研究科	-		60	8	68
研究所等		1	0	0	1
小計	160	243	1,033	196	1,632
留学生センター	33*		-		33
合計	436		1,033	196	1,665

\*留学生センターは日本語研修コース、日本語・日本文化研修コースの留学生を指す。



さらに、大学院課程全体（大学院研究生を含む）に学士課程の研究生（いわゆる学部研究生）を加えた留学生数1,472人が留学生全体に占める割合は88.4%に達します。学士課程の研究生（いわゆる学部研究生）や大学院研究生は、大学院入試のための準備学習を行ったり、大学院を修了年限まで在籍した上で博士学位を目指す学生が多くを占めます。つまり、名古屋大学で学ぶ留学生の9割近くは大学院学生か、その予備軍あるいは修了者であると言えるでしょう。

また、図2からわかるように、名古屋大学で学ぶ留学生の74.7%（1,243人）は私費留学生です。日本政府の国費留学生は22.4%（373人）、外国政府派遣留学生は2.9%（49人）となっています。つまり、名古屋大学で学ぶ外国人留学生の量的特徴をまとめると、①アジア出身者が多い、②大学院学生およびその予備軍である研究生が多い、③私費留学生が多い、といえるでしょう。

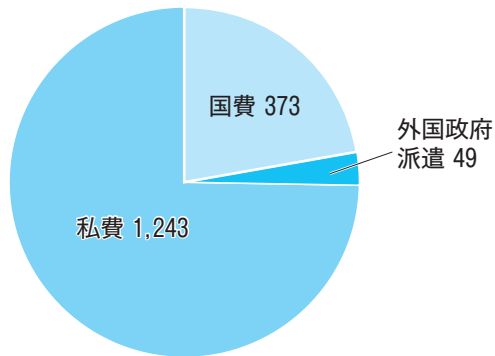


図2 国費留学生と私費留学生の割合

さらに名古屋大学では平成23(2011)年10月から、英語のみによる授業で学位が取得できる教育プログラム（国際プログラム群）を学士課程と大学院課程の両方で実施します。このプログラムは国際化拠点整備事業（グローバル30）により、外国人留学生入試及び帰国

子女等を対象としています。学士課程では自動車工学、物理系、化学系、生物系、国際社会科学の5つのプログラムが提供されています。募集人数はいずれも若干名ですが、これまで少なかった学士課程の外国人留学生の増加が見込まれます。

同時に、大学院前期課程では物理数理系、化学系、生物系、経済・ビジネス国際、比較言語文化の5プログラム、大学院後期課程では物理数理系、化学系、生物系、医学系の4プログラムがスタートする予定です。

### コラム 1 名古屋大学留学生後援会について

名古屋大学留学生後援会は、昭和60(1985)年に発足し、留学生や指導教員等の経済的・精神的負担等の軽減・解消するための取り組みを続けています。名古屋大学留学生会の活動や留学生の不測の事故・疾病への経済的支援のほか、賃貸住宅入居の手続きの際、以前は指導教員等が行っていた連帯保証を留学生後援会が機関保証する等の事業を行っています。その際には、「留学生住宅総合補償」に加入することを機関保証の条件としています。毎年1月頃、留学生後援会から入会依頼が教職員に配付されますので、どうか留学生への経済的支援にご協力くださるようお願いします。

## 2. 留学生の受け入れに関するQ&A

---

Qは2010年8月に実施した教員アンケート結果から要約・抜粋したものです。Aはこのアンケート結果をもとに、留学生相談室や留学生担当教員の経験を活かして作成しました。

### 2-1. 受け入れ手続きを行う

**Q1** 留学志望者の日本語能力をどうチェックすればよいか。

**A** 履歴書や研究計画書などを提出させた上で、この内容に基づいて直接インタビューを行うことをお勧めします。電話だけでは本人確認をできない場合もありますので、国際電話やSkypeを使うなど工夫をしてください。本人がすでに日本の他大学や日本語学校に滞在している場合は、大学に直接来てもらい、日本語能力、基礎学力などをチェックすることもできるでしょう。

**Q2** 記載された学歴が正確なものかどうか、申請段階でどうチェックすればよいか。

**A** 志願者の出身国の教育事情に詳しい教員に書類を見せて確かめてみてください。中国の場合は「中国学位・学歴認証システム」があり、中国で取得した学位を中国政府の機関が認証してくれます。名古屋大学ではすでいくつかの部局がこのシステムを導入しています。詳しくは、所属部局の留学生担当教員にお尋ねください。

**Q3** 志望学生の出身大学のレベルを確認するのが困難だが、どうしたらよいか。

**A** 志願者の出身国の教育事情に詳しい教員に確かめてみてください。国によっては、重点大学などの区分があるところもあります。その他、世界大学ランキングを発表している機関もいろいろありますので、ある程度参考になるかもしれません。ただし、こうしたランキングは独自の指標に基づいて作成されていますので、大学の順位は指標によって大きく異なることがあります。学生の出身大学のレベルを確認する参考情報にはなりますが、必ずしも絶対的な判断基準とはいえません。できるだけ、一つの情報だけで判断せず、信頼できる複数の情報を総合して判断するようにしてください。

## コラム2 日本留学のための3点セット

外国人が日本に留学するには、①入学許可、②在留資格、③査証（ビザ）の3つが必要です。名古屋大学では入試等によって留学生の受け入れを決定した後、在留資格認定の代理申請を法務省の入国管理局に対して行っています。入国管理局は個別に審査を行い、在留資格を認定します。この手続きには2ヵ月程度を要します。入管から在留資格認定証明書が発行されたら、名古屋大学はこれと合格証明書を留学予定者に郵送します。留学予定者はそれらを最寄りの日本大使館あるいは総領事館に持参し、日本入国査証の発給手続きをとります。法務省が行う在留資格認定と外務省が行う査証の発給は別物です。こうした一連の手続きにはかなりの時間を要しますので、受け入れる際には十分にご注意下さい。

**Q4** 研究計画書を自分で書いていないと思われるものがある。どうやって見なければよいか。

**A** そのように感じられる箇所があれば、Google Scholarなどで検索にかけてみると、オリジナルの論文や報告書が出てくる場合があります。また、市販ソフトウェアを利用するという方法もあります。その他、本人に研究計画書について、口頭で説明させたり、質問してみるとよいでしょう。自分で作成していない場合は、明確な回答ができないことがあります。

**Q5** 留学生の身元引受人や出身大学の推薦書等の信頼性が疑われるときは、どうやって確認すればよいか。

**A** 身元引受人や推薦書を作成した教員の連絡先に直接問い合わせ、留学生本人について尋ねるとよいでしょう。推薦書を書いた先方の大学教授がその学生のことをよくわかっているとは限りません。推薦書や身元引受人が形式的になっている国もありますので、十分に注意することが必要です。

**Q6** 授業料や生活費の支払い能力があるかどうか、どうやって確認すればよいか。

**A** 留学生としての在留資格認定を受ける際に、どの留学生も留学経費の支弁能力に関する証明書を提出していますので、入学後授業料の支払いができない、ということは本来ありえません。ただし、入学後、学費免除や奨学金をあてにしている学生がいるかもしれません。留学生には、これらを入学前にあてにしないこと、万が一支払いができない場合には、最悪の場合は

帰国しなければならないということを伝えることが必要です。

**Q7** メールでやりとりしても、研究生を受け入れるべきかどうか判断がつかない。たくさんの希望者から依頼が来て、誰を受け入れるかで悩んでいる。

**A** できるだけ一人で判断せず、これまでその国・地域の留学生を受け入れたことのある同僚教員、留学生担当教員に相談してみてください。部局によっては、研究生希望者の情報を留学生担当教員のところに一元化しているところがあります。最近、仲介者が本人になりすましてメールをしたり、書類の偽造なども散見されますので、まず本人確認をすることが重要です。すでに日本国内にいる場合は、大学に来てもらい、直接話をするのがよいでしょう。海外にいる場合は、Skypeや電話などの手段で直接話をするという方法もあります。その際は質問

### コラム3 外国語を話すと内容が幼稚になる？

不自由な言語を駆使する時、限られた語彙の中で話そうとするため、意図を十分に伝えられないことがあります。内容が簡略化されたり一貫性が失われて、発話が意図とずれてしまいがちです。ずれた内容につじつまを合わせようとするために悪循環に陥り、極端に幼稚な表現になってしまうという現象が報告されています。積極的に外国語にチャレンジする人ほど、物事の理解が浅く、優柔不断だとみなされがちです。成人期以降に新たな言語習得を経験した人なら、誰もが思い当たる節があるのではないのでしょうか。われわれ教員は、留学生の日本語表現が不十分だからといって、彼らの思考能力も未熟であろうと判断しないように注意する必要があります。

を工夫し、これまでどのような学習をしてきたか、どんな先生から指導を受けてきたか、なぜあなたの研究室を希望するのかなど、履歴書に基づいて具体的な質問をするとよいでしょう。相手にはできるだけ書類を読まずに口頭で答えるようにさせるとよいでしょう。日本人学生も含めて、受け入れ教員として責任をもって研究指導できるキャパシティをあらかじめ考えておいてください。

**Q8** 入学検定料の送金方法をどうしたらいいのか？ 留学生にとって為替の作成は容易でないと思うが。

**A** 入学検定料の送金方法については全学的な課題となっており、現在様々な方法を検討中です。詳しくは所属部局の留学生担当教職員にご相談下さい。平成23年度から始まるグローバル30プログラムでは、クレジットカード決済ができるようになりました。近い将来、グローバル30プログラム以外の学生にもクレジットカード決済ができるように検討中です。

**Q9** 留学生にチューターをつけられると聞いたが、どのような学生をチューターに任用すればよいか。

**A** その留学生がどのようなサポートを必要とするのかを把握し、それに適したチューターを探すことが必要です。専門分野の基礎知識の習得が必要なら、同じ研究室の先輩学生が望ましいでしょう。短期留学生のチューターなら、日本の文化施設などに一緒に出かけたり、必要な時に通訳ができる学生が好ましいでしょう。その他、責任感があり、留学生支援に真面目に取り組むことのできる学生、コミュニケーション能力をもった学

生であることが期待されています。

本学では『名古屋大学チューター・マニュアル』や『名古屋大学チューターハンドブック』を制作しています。下記のURLからPDF形式で全文ご覧いただけます。

<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/exchange/tutor.html>

**Q10** 留学生のチューターに適任の日本人学生が見つからなくて困る場合が多い。

**A** 日本に一年以上滞在しており、チューター業務に問題のない留学生ならば、チューターを依頼することができます。むしろ

#### コラム 4 日本の安全神話もたらした悲劇

日本の生活は安全だという話を過剰に信じて油断してしまい、苦い経験をする留学生がときどきいます。自宅を訪問してきた自称「市の職員」に玄関のドアを開けて質問に答えてしまったり、自称「保健所職員」に在宅健康診断をされたという例もあります。安全だと信じる気持ちに加えて、日本語で対応するのに必死で、「何かおかしい」と察知する注意力が低下してしまったのかもしれませんが。インターネットショッピングで格安の中古車を購入したらそれが盗難車だった、購入したはずの高額物品が届かなかったなどで、何十万円という貯金を一気に失った留学生もいます。

こういう場合、留学生は自分自身にも過失があると感じると、大学や警察に届けず、自力で処理しようとして多くの労力と時間を費やすことがあります。もし留学生が落ち着きをなくしたり、何かに時間やお金を費やしているようだと感じられる場合は、声をかけてみてください。



る留学生の方が、日本社会での適応方法などについて、より適切なアドバイスをすることができるかもしれません。また他研究室、他研究科の学生でもチューターになることができます（ただし研究生はチューターになれません）。

**Q11** 研究生として入学したら、自動的に大学院の試験に合格できると考えている留学生がいる。どのように対応するのが適切か。

**A** 研究生を受け入れる際には、もし大学院入試に不合格になった場合どうするかを本人に事前に十分に検討させてください。研究生になったからといって大学院の入試に合格することが保証されているわけではないこと、不合格になった場合は、他研究科や他大学への入学も視野に入れておくことを理解させる必要があります。あなたの研究室では、最大どのくらいの期間まで研究生を受け入れることができるか、彼らに大学院受験のチャンスを何回まで認めるのかも併せて伝えてください。

また日本の入管法では、在留資格の期間が残っていても所属先がなくなってしまうと、日本に滞在できなくなります。このことも本人によく伝えることが大切です。

**Q12** 他大学の大学院受験を勧めたが、転学を受け入れがたいようである。

**A** 希望する教員に研究生として受け入れられると、自動的に大学院に入学できると考える留学生がたまにいます。あるいは、他の研究科や大学を受験したり、指導教員を変更することは、一度受け入れてもらった教員に対して裏切ることになると考えている人もいます。そのため、所属する大学院しか受験し

ない人もいます。運悪く合格できなかった場合、研究生の継続ができず、行き先が決まらずに途方に暮れてしまうことも少なからずあります。このような最悪の結果を避けるためには、ふだんから大学院入学試験の難しさを説明し、万が一に備えて他の研究科や大学も受験しておくように伝えておきましょう。

**Q13** 大学院入試に不合格であった留学生を、次年度の研究生として受け入れ延長すべきか。

**A** その学生は、もう一年研究生を延長すれば大学院入試に合格できる可能性がありそうでしょうか。研究生の期間中に、どの程度努力して学習、研究をしたか、研究能力、基礎学力、語学能力はどの程度向上したか、大学院に入学しても留学生活が継続できるかななどを総合的に判断し、研究生の受け入れ継続の可否を考えてください。

**Q14** 留学生を（4月、10月以外の時期に）3ヶ月受け入れるが、宿舎をどうしたらよいか。

**A** まず、所属部局の留学生担当教職員を通して、国際学生交流課の宿舎担当者に空室があるかどうかを問い合わせるのがいいでしょう。空室がない場合、学外のアパートを探すことになります。基本的には、名大生協や大学付近の不動産会社で探す必要があります。

**Q15** 留学生を受け入れたいが、入学前に申し込める奨学金はあるか。

**A** 残念ながら、留学生用の奨学金はほとんどが入学してからの申し込みになっています。国費留学生奨学金には3つの申し込み方法があり、大使館推薦、大学推薦と国内採用です。大使館推薦と大学推薦は、入学前に決まります。これらを含め、留学生の奨学金については独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）のホームページに詳しく掲載されています。

## 2-2. 日本の生活への適応を促す

**Q16** 奨学金を受給できると期待して入学したために、不採択になって困窮している私費留学生がいる。どのように対応すればよいか。

**A** 私費留学生の場合は、少なくとも1年間は日本で暮らせる費用（入学金、授業料、生活費など）を準備するように、受け入れる前に本人に伝えてください。少なく見積もっても年間150~200万円は必要です。独立行政法人日本学生支援機構では私費留学生のための学習奨励費を提供しています（大学生：月48,000円、大学院生：月65,000円）。ただし、採択数には限りがあります。大学から推薦されるためには、全学の採択計算ルールに加えて、各部局における推薦基準をパスしなければなりません。部局によっては研究生も申請できる場合がありますが、正規学生が優先される可能性が高いです。このほか、民間財団などの奨学金もありますが、研究生を対象とする奨学金はほと

んどありません。

もし学習奨励費や奨学金の申請が不採択になった場合は、アルバイトをして生活費と学費を賄う準備をさせてください。研究室内や学内でのアルバイト情報をご存じであれば、ぜひ留学生に紹介してください。

## Q17 留学生がアルバイトを優先して、研究活動が停滞している。

**A** 留学生がアルバイトをするには、入国管理局から「資格外活動許可」を受ける必要があります（TAやRA、チューターを除く）。外国人留学生は日本でアルバイトをすることが条件つきで認められています。一般的には、1週間28時間以内の就労

### コラム5 留学生が周りから誤解されていたら、守ってあげよう

留学生の多くが直面する問題の一つに、ごみの分別があります。実際、名古屋大学では留学生寮の入居オリエンテーション等で説明していますが、複雑な日本のごみ分別システムを完全に理解することは難しく、たまにアパートの管理人と問題になることがあります。

アパートの管理会社から大学に「留学生がゴミを放置しているので、何とかしてほしい」と苦情を寄せられることがときどきあります。留学生は、日本での生活知識が不十分なことから、周囲から誤解をされがちです。そのときは、中立的な立場で彼らの話を聞き、できるだけ周囲の誤解をといてあげるように力になってあげてください。また、ゴミを分別することの意味（リサイクルの奨励）や収集日の前夜に出してはいけない理由（カラスに荒らされる、悪臭などの原因になるなど）について、チューターに説明してもらおうとよいでしょう。

が認められています。留学生は自分で最寄りの入国管理局に向いて「資格外活動許可申請」を行う必要があります。許可されるとパスポートにシールが貼られ、留学生はそのコピーを学部・研究科の留学生担当事務窓口に提出しなくてはなりません。夏期休暇などの長期休業期間は一日8時間以内のアルバイトをすることができます。ただし、名古屋大学では留学生の休学中のアルバイトを原則として禁止しています。

留学生がアルバイトを希望する場合は、上記の許可を得ているかどうかを確認してください。その上で、どのようにアルバイトの時間を捻出するのか、希望するアルバイトが学習・研究活動に支障をきたさないかどうかを指導教員から確認してください。そして、雇用主に労働条件や賃金の支払いについて明記した文書をできるだけ作成してもらうように学生に伝えてください。

もしアルバイトによって学業や研究活動に支障をきたすならば本末転倒です。その場合は、留学生とよく相談した上で、アルバイトの時間を減らす、中止する、あるいは別のアルバイトに変えるなどのアドバイスをしてください。また、学生の服装や外見がきわだって変化したと感ずることがあれば、プライバシーに支障ない範囲で、何か生活上の変化があったかどうか聞き、研究活動の進展を促してください。

**Q18** 留学前には経済的な問題はないと主張するが、留学後に経済的な困難さを強く訴える留学生がいる。

**A** 本来的には日本に留学する時点で経済的な問題は存在しない、もしくは解決していることが前提になっています。留学生は在留資格認定証明書の交付申請時に、日本留学中の経費を支

弁する能力があることを証明しなければなりません（研究生も含めて）。それでも諸般の事情で経済的に困窮しているようなら、日本学生支援機構の学習奨励費やその他の各種奨学金を申請する、あるいは適切なアルバイトを探すなどの対応をとるように留学生に指導してください。ただし、アルバイトが生活の中心となってしまう、学習・研究活動に支障をきたすようではいけません。また、休学中に日本でアルバイトをさせないでください。次回の在留期間更新が不許可になる可能性があります。どうしても経済的な問題を解決できない場合は、休学して

## コラム 6 高コンテキスト文化と低コンテキスト文化

日本では、相手にものごとを伝えるときに直接的な言い回しを避け、婉曲的な表現を多用することがあります。また、「空気を読む」と表現されるように、相手の気持ちを察することがコミュニケーション上で重視されると言われています。

文化人類学者のE.T.ホールは、日本のように特定のコンテキスト（文脈や状況）に依存する割合の高い文化を「高コンテキスト文化」と呼び、コンテキストに依存する割合の低い文化を「低コンテキスト文化」と名付けました。日本人からみると、外国人は「わかりきったことを、くどくど説明している」ように感じられるかもしれません。逆に、外国人からみると日本人は「言葉で明確に表現してくれないので、何を考えているのか十分にわからない」と思うかもしれません。

留学生が流暢な日本語を話す時はなおさら、日本人は無意識のうちに彼らに日本人としての言動を期待してしまいがちです。でも彼らに「そんなことは言わなくてもわかるでしょう」という論理はなかなか通じません。互いの誤解を少なくするために、研究室運営上の「暗黙の了解」をできるだけ言語化してみるといいでしょう。

自国へ戻り、資金の準備ができれば再来日することも選択肢の一つです。

**Q19** 病気や事故などの突発的な事由により、経済的に困っている留学生がいる。

**A** 名古屋大学留学生後援会が5万円の貸付金を行っています。この貸付金は3ヶ月以内に返済する場合に限られ、無利子です。ただし、授業料などをカバーするには不十分ですので、あくまで想定外の一時的な支出を賄う目的に限られます。

**Q20** 日本人学生との日常的な交流ができるように研究室でさまざまな行事を行っているが、経済的理由からコンパやゼミ旅行などに留学生の参加が難しい場合がある。

**A** 一般的に留学生はまとまったお金を出すことが難しいため、少しずつ積み立てる方法を考えたり、ゼミ旅行のための研究室内でのアルバイトを考えたり、彼らの経済的負担を軽減できるように配慮してください。できるだけお金をかけずに楽しめるように工夫できるとよいでしょう。留学生が行事への参加を希望しないときは、何か理由があるかもしれませんので、無理強いはいしないでください。

**Q21** 留学生からアパートの保証人になるのを頼まれた。

**A** 原則として、指導教員が保証人になる必要はありません。名古屋大学留学生後援会が連帯保証事業（機関保証）を行いますので、ほとんどの場合、指導教員個人が保証人になる必要

はありません。留学生には国際学生交流課で機関保証の手続きするよう話してください。ただし、機関保証は留学生のみが対象であり、外国人研究員には適用されませんのでご注意ください。

まれに、留学生が機関保証を認めないアパートを探してくる場合がありますが、その場合はできるだけ別のアパートを探すように伝えてください。学生が機関保証を認めないアパートを強く希望する場合は、留学生担当教職員にご相談ください。

## Q22 私費留学生用に、家賃が安く日本語の得意でない学生を受け入れてくれる住居を研究室で探さなければならない。

**A** 新規の留学生は、4月、10月の渡日であれば名古屋大学の宿舎に原則として6ヶ月～1年間入居することができます。入居する宿舎・部屋は大学によって割り当てられます（家賃は宿舎や部屋によって多少異なります）。その後の住居について困っているようであれば、留学生全員に配布されている『名古屋大学留学生ハンドブック』に詳細な情報が記載されていますので、これを読むように伝えてください。また、大学近辺の各種不動産会社は留学生の宿舎探しに慣れていますから、気軽に相談するように伝えてください。

一方で、日本の民間アパートの家賃相場について、留学生に実態を理解させることも大切です。ちなみに、名古屋大学の留学生の平均家賃は月37,000円程度となっています。

## Q23 アパートでの苦情を大学に持ち込まれたことがある。

**A** 名古屋大学留学生後援会が連帯保証事業を行っているため、宿舎やアパートで起きたトラブルは、連帯保証人である大



学に持ち込まれることが多くあります。たいていのケースは国際学生交流課と各部局の担当者が協力して対応しています。指導教員は留学生に対しても、家主に対しても、最後の切り札のような存在です。事務局からご協力をお願いすることがあるかもしれませんが、その際はどうかご協力願います。

**Q24** 留学生がアパートを退去するときに後始末をきちんとしていないケースがある。また、帰国後に廃車手続きが完了していなかったケースがあった。

**A** このような緊急の場合は、所属部局の留学生担当教職員にご相談ください。基本的に、指導教員が経済的な負担をする必要はありません。留学生がすでに帰国してしまった場合は、実情を伝えて、必ず留学生本人に費用の請求をしてください。

アパートの入退去は居住者の自己責任です。家主とトラブルが起きないように十分な配慮が必要だということを、指導教員からも受け入れ時に留学生に念を押してください。

**Q25** 留学生が交通違反をして、警察から出頭命令が届いた。その際に、通訳として指導教員にも出頭依頼があった。

**A** すぐに留学生担当教職員にご連絡ください。状況に応じて、指導教員のご協力が必要になる場合があります。

**Q26** 留学生が精神的な問題を抱えているようで、指導教員にあまり話したがらない。

**A** 留学生が精神的に不安定な状態になっている場合は、すぐに留学生相談室にご連絡ください。留学生相談室にはメンタルヘルス（精神医学）を専門とするカウンセラーがいます。よく眠れない、気分的に落ち込んでいる、摂食障害がみられるなどの初期症状は、チューターや周りの学生が気づくことが多いです。

**Q27** 留学生が研究指導の内容をなかなか理解しないのでおかしいと思っていたら、中等度の難聴だったことが判明した。どのように対応すればよいか。

**A** 所属部局の留学生担当教職員および学生相談総合センター内の障害学生支援室に連絡するとよいでしょう。区役所で手続きをすれば、障害者手帳をもらうことができます。また、補聴器の購入が無料になるなど、さまざまな補助を受けることができます。これらは学生が自分で手続きすることができます。ふだんから学生と話をするときには、大きめの声で、はっきりと話をするように心がけてください。

留学生が到着したら、何らかの障害をもっているかどうかを確認するのがよいでしょう。

**Q28** イスラム圏からの学生が複数いるので、研究室内での祈りの場所を用意してほしいと言われた。

**A** イスラム教徒（ムスリム）の金曜礼拝については、名古屋大学ではインターナショナルレジデンス東山の会議室を使用で

きるよう配慮しています。ただし、毎日の祈りの場所は大学内に確保されていません。空いている教室や階段の踊り場を使っているという報告もあります。イスラム教徒にとって祈りは生活の一部ですし、その姿を日本人学生が目にするのは異文化理解につながります。できれば研究室の周囲で場所を確保してくださるとありがたいです。

**Q29** 留学生によっては宗教的理由により食べられない食物がある。

**A** 留学生にどのような飲食上の制約があるかを、受け入れ時に確認しておいてください。制限のある飲食物を強引に勧めることは避けてください。宗教上の理由でなくても、ベジタリアンの人もあります。ブフェスタイルのパーティーでは、食べ物の名前と食材を記載したカードを添えておくとうわりやすいです。生協食堂の中にはハラールフードなどの表示がなされているところもあります。

**Q30** 私が受け入れた留学生は、困っていることやわからないことを、なかなか話してくれなかった。

**A** 留学生を受け入れるときに、困ったことがあったら、遠慮せずに相談するように最初に伝えてください。ふだんから、「困っていることはないですか？」と留学生に声をかけて、彼らに何らかの注意を促すときは根拠や理由を明確に示すことが大切です。

学生と教員の関係には文化的な差異も大きく影響します。個人的な悩みを指導教員に相談するのを遠慮する学生は少なくあ

りません。その反対に、学位が取れないのは教員の指導が悪いからだ」と誤解する学生もたまに見受けられます。

**Q31** 奨学金申請のための推薦書を書くのにかなりの時間を取られる。

**A** 推薦書作成を依頼された時は、まず留学生本人に自分のアピールポイントを書かせてみてはいかがでしょうか。自分のことは本人が一番わかっているはずですよ。それを参考にして、奨学金団体等の趣旨に合わせて指導教員が書き直せば、比較的容易に書くことができるでしょう。

**Q32** 友人関係について悩んでいる留学生は多い。日本人学生は冷たいと考える留学生もおり、友人関係、学術コミュニティを形成しづらい。

**A** 各部署の学生用掲示板や留学生センターの掲示板では、学生用にさまざまな行事を案内しています。ぜひ積極的に行事に参加するように伝えてください。また、できるだけ研究室全体で留学生をバックアップするように工夫してください。

友人の作り方や友人関係は文化によっても違いがあります。日本社会では友人をつくるのに比較的時間がかかるようですが、知り合うことと友人になることがほぼ同義の文化もあります。特にスキンシップの多い国から来た学生は、日本人の人間関係を淡泊だと感じるかもしれません。また、母国で学生寮での生活が長かった留学生にとっては、アパートで単身生活を送ることは心細く感じられるかもしれません。この問題について留学生が指導教員に相談しづらいようであれば、チューター

に相談役を依頼するという方法もあります。いきなり日本人の友人をつくるのはハードルが高いようであれば、相談相手になれるような同国人や他の留学生を紹介するという方法もあるでしょう。

**Q33** 一時帰国から戻った留学生がお土産を持ってきてくれた。受け取ってよいのだろうか。

**A** 留学生がプレゼントに類するものを持ってきてくれる場合、高価なものでなければ、感謝の気持ちを伝えつつ受け取って差し支えないでしょう。その際に、「あなたの気持ちは十分に伝わったので、次からはこのような気遣いをしなくてもいいよ」と一言添えてはいかがでしょうか。贈答の文化が深く根付いている国もありますので、むげに断る必要はないでしょう。ただし、お中元やお歳暮に類するような贈答品や、明らかに高価なものだと思われる場合は、相手の気分を害さないように「気持ちだけで十分うれしいです」と感謝しつつ、遠慮するのが妥当だと思われます。

**Q34** 書類提出の期限などを守れない留学生がいる。

**A** その留学生が提出期限を理解しているかどうか確認してください。理解しているとすれば提出期限を守らなくて困るのは本人です。たしかに、時間の感覚は国や地域によって大きく異なるようです。来日当初は文化の違いに戸惑うかもしれませんが、約束や期限を守れない人は日本社会では信用されなくなるということを本人にはっきりと伝えてください。

## Q35 授業料を滞納している留学生がいる。

**A** 授業料を滞納すると、日本人学生と同様に除籍扱いとなり、所定の学位を取得することができません。留学生が学位を取得する意思、卒業する意思があるかどうかを確認し、もしその意思があるならば、できるかぎりの方法で授業料を工面するように伝えてください。

## Q36 留学生が、在留資格を「家族滞在」または「日本人の配偶者」に切り替えたいと言っているが、どんなことに注意をすればよいのか。

**A** 在留資格を「家族滞在」あるいは「日本人の配偶者」に切り替える場合は、留学生本人が入国管理局に申請しなければなりません。留学時に在留資格を取得する際は名古屋大学が入国管理局に代理申請を行い、この証明書を携えて本人が自国の日本大使館あるいは総領事館でビザ発給の手続きをとっています。これに対して、在留資格を変更する際はすべて本人が入国管理局で申請しなければなりません。在留資格を変更したら、すみやかに事務窓口へ報告するように伝えてください。在留資格

### コラム 7 ベジタリアンにもいろいろある

留学生の中にもベジタリアン（菜食主義者）の人がいます。ベジタリアンにも程度があり、動物系の原料から作った調味料やスープすら食さない場合や、肉はダメだが卵や魚は大丈夫という人もいます。ベジタリアンではないが、刺身などの生ものは食べられないというケースもよくあります。食べられないものがあるかどうかを最初に確認しておくといいでしょう。

「留学」を他の在留資格に変更すると、留学生対象のチューターや奨学金などは対象外となります。アルバイトのための資格外活動許可申請も、従来の在留資格で取得した許可は無効になります。これらの点に十分に注意するように伝えてください。

**Q37** 留学生が留年すると在留資格や奨学金、授業料免除などに影響するのか。

**A** 留年するしないにかかわらず、在留資格には更新手続きが必要です。標準修業年限内の正規生は2年もしくは1年毎の更新で、留年者と非正規生（研究生）は1年毎です。国籍を問わず、留年している者または最短修業年限を越えた学生は、原則として授業料減免申請をすることはできません。また、民間奨学金の募集においては、留年者が申請できるものはほとんどありません。

**Q38** 母国にいる家族が病気になったので、突然帰国したいと留学生からメールがあった。すぐに携帯に電話してみたが繋がらない。

**A** 母国の家族に問題が発生すると、留学生は一時的にパニック状態に陥り、冷静な判断ができなくなることがあります。すぐに学生にメールを送り、現在の所在と状況を早く知らせるように伝えて下さい。念のため、部局の留学生担当教員と事務担当者に連絡して下さい。留学生が一時帰国する際には、必ず事務手続きをさせるようにして下さい。また、受講している他の授業の担当教員にも連絡をしていない可能性がありますので、指導教員は必要に応じて他の教員に連絡して下さい。

**Q39** 留学生から妊娠しているとの報告があった。指導教員としてどう対応すればよいか。

**A** 在学中に妊娠・出産を経験する留学生は少なからずいます。妊娠3~4カ月の安定期に入ったところに、本人から指導教員に報告するケースが多いです。留学生から報告を受けたら、まずは、新たな命の誕生を祝い、同時に本人の意思を尊重・配慮しつつ、休養期間および育児時間を考慮して、論文作成などの研究計画を柔軟に見直すようにアドバイスしてください。初めての出産の場合は、出産・育児に伴う時間的・体力的負担を十分に予測できず、本人はつい無理な計画を立ててしまうことがあります。場合によっては、休学や修了時期の延長も考えられます。出産に伴う費用の準備も必要です。適当な時期にじっくりと相談してください。

**Q40** 留学生から子どもを保育園に行かせたいと相談を受けた。

**A** 東山キャンパスには、大学が運営する「こすもす保育園」

#### コラム 8 留学生と「おみやげ」

私は一時帰国する留学生にお土産を頼むことがあります。ひとつは家族と一緒にの写真です。後で見せてもらいます。もう一つは（最近）こすもす保育園と学内の学童保育所に置いたための絵本1冊です。お金を先に払っておいて、その人の「お勧めの一冊」を買ってきてもらいます。自分が小さい時に一番好きだった絵本を持ってきてくれた人もいて、それが日本で子どもたちに読まれていくのを喜んでくれました。名大の保育園ならではの蔵書です。



と、名古屋市の認可保育園「どんぐり保育園」があります。「こすもす保育園」には、共働き夫婦のために小学生を預かる学童保育所「ポピンズアフタースクール」も併設されています。ただし、空き状況などの条件により、必ずしも入園できるとは限りません。これらを利用しようと思う留学生は、できるだけ早く情報収集をして準備する必要があります。出産費用や保育園についての情報は、留学生相談室はもちろん、住んでいる地域の区役所でも得ることができます。

## Q41 留学生から、自分の親を日本に招聘するための保証人になってほしいと頼まれたが、どうしたらよいか？

**A** いくつかの国を対象に、そこからやってきた留学生が親族を日本に招く際には、日本側の保証人が必要となります（ただし、必ずしも日本人が保証人になる必要のない国もありますので、留学生によく調べるように伝えてください）。保証人には親族の日本滞在中の責任や帰国させる義務などが生じます。信頼できる留学生であれば、保証人になることにほとんど問題はなideでしょう。保証人になることで留学生との間に信頼関係が高まることもありますので、むげに断る必要はありません。

とはいえ、滞在中に親族が病気や事故にあう可能性も否定できませんので、保証人を引き受ける場合は、親族が必ず海外旅行保険に加入することを条件にしてください。また、単に保証書にサインするだけでなく、親族の滞在中の行程を記した書類等のコピーを保管しておいてください。

**Q42** 留学生が日本で就職したいと言っているが、就職に関する情報をどこで入手できるか。

**A** 留学生相談室では留学生に特化した求人情報を提供するとともに、留学生対象の会社説明会の開催、就職活動支援コースを開講して、留学生の就職を支援しています。留学生の就職関係の刊行物など参考になるものもそろえていますので、ぜひ利用するよう留学生に伝えてください。また、学生総合支援課の就職支援室では、年間を通じていろいろな就職関係のイベントを全学対象や学年別に開催しています。企業人事担当者や先輩の話の聞けたり、職種別の講座もあります。12月には就職活動学年を対象とした企業研究セミナーが学内で開催され、約400社が参加します。

## 2-3. 学習を支援する

**Q43** 授業の前提となる留学生の基礎学力にばらつきが大きい。

**A** こうした声を寄せる教員は少なくありません。しかし本来ならば、入試の時点で一定の基礎学力が担保されているはずで、それでも受け入れた留学生の基礎学力が不足している場合には、チューターや留学生担当教員と相談して対策を考える必要があります。自習用の基本文献を紹介する、勉強会や補講を行って基礎学力を補うなどの事例が報告されています。

## Q44 たびたび授業を欠席する留学生がいる。

**A** 初回の授業のときに、無断で欠席してはいけないこと、また欠席する場合はメールでもよいので担当教員に連絡を入れることなどを受講者に伝えるとよいでしょう。また、次回の授業に留学生が出てきたら、「元気でやっていますか。何か困っていることはありませんか？」と声をかけると、出席への励みとなる場合が多いようです。ひんぱんに授業を欠席するようならば、身近に何か問題が起きているかもしれませんので、一度本人と直接話をしてみてください。チューターや留学生担当教職員とも相談するとよいでしょう。

## Q45 友だちがいないのか、レポート、試験、掲示やレポート課題に気づかない留学生がいる。

**A** その留学生は、授業中の指示を十分に聞き取れていない可能性があります。日本語能力が不足しているようでしたら、留学生センターが提供している日本語の授業を履修するように勧めてください。その場合、学生的心情を考慮して、他の学生がいるところでアドバイスするのではなく、あとで個別に伝えるのがよいでしょう。また、レポートや課題はできるだけ口頭による指示ではなく、書面でシラバスや掲示板などに周知すると効果的です。

留学生に限らず、授業の中で一部の学生が孤立しているように見受けられることがあります。授業の中で学生同士が協力して学ぶような活動を取り入れたり、他の学生と協同で調査・制作するような課題を与えてみてはいかがでしょうか。

**Q46** TAは単なるアルバイトであるという認識を持っている留学生がいる。

**A** TAやチューターに求められる具体的な職務内容について、採用予定の学生に対して明確に説明してください。これらの職務内容は、学部・研究科、科目や担当教員によっても異なります。TAやチューターを採用する際は、この仕事は単なる雑用係ではなく、学生に対して責任を伴うものであること、一定の教育業績にもなりうることを伝え、採用後は彼らと話し合う機会を定期的に設けてください。職務の進捗状況について随時話し合うことが大切です。

**Q47** 授業内容を理解するための日本語能力が不足している留学生がいる。

**A** こうした意見を寄せる教員は少なくありません。しかし、本来ならば、留学先での学習に必要な日本語能力は入試の時点で吟味されるべきです。授業に際して、日本語能力を差し引いて基準を大幅に緩和して点数をつけるようなことは、公平性の観点からも、教育的な観点からも望ましくありません。そうはいっても、何らかの教育的配慮は必要かもしれません。多くの教員は、シラバス、板書などを英語で表示する、キーワードを英語で表現する、レポート課題や試験を英語で回答することを認めるなどの方法で対応しています。

**Q48** ディスカッションで英語・日本語を繰り返して二度手間になってしまい、時間のロスが大きい。英語のよくわからない日本人学生、日本語のよくわからない留学生を同時に教えるのに苦労している。

**A** これも多くの教員から寄せられた意見の一つです。複数言語での授業は、教員にとっては時間的かつ精神的な負担が大きくなります。名大教員へのアンケート結果からは、英語の資料を使いながら授業は日本語だけで行う、日本語で話しながら英語で板書する、またはその逆、あるいは翻訳版がある教科書を用いて一言語で行う、などの工夫が報告されています。また、日本人学生は英語での授業に不安を感じる傾向がありますが、彼らにとっても専門分野を英語で学ぶことには大きな意義があるということをメッセージとして伝えてください。

**Q49** 研究生の場合、聴講という感覚で授業に出ている人がおり、出席が気まぐれになりやすい。

**A** 初回の授業で、研究生にも正規学生と同様の授業参加が求められるということを伝えてください。シラバスにもその旨を明記するとよいでしょう。逆に、あまり授業への参加意欲が高くない研究生には、場合によっては参加を断ることが必要かもしれません。

**Q50** 報告や議論という演習形式に慣れていない留学生がいる。

**A** これまで受けてきた教育によって、留学生にとってイメージしにくい形式の授業があるかもしれません。Qとは反対に、

講義形式にはどうしても慣れることができないという学生もいるようです。留学生が報告や議論を中心としたセミナー形式の授業に慣れていない場合は、日本の大学がどうしてもそのような形態を重視しているのかを留学生に考えさせる機会を与えてください。講義中心の受身の学習だけでなく、自分から積極的に議論に参加して、切磋琢磨した結果、はじめて獲得できる知見や真理があるということを伝えてください。

いきなり発表を引き受けることは、ある学生にとっては難しいことかもしれません。その場合は、最初は他者の発表に一言でよいのでコメントしてもらい、次は指定コメンテーターとしてあらかじめ準備して質問する、次に報告者になる、司会者になる、などの役割に順々に慣れていくという方法もあるでしょう。また、最初は少人数のグループでディスカッションを行い、後で全員にフィードバックすることにより、人前で意見を発表することに慣れるという方法もあります。

特定の留学生だけが積極的に発言して、一般の学生や他の留学生が沈黙してしまうような場合は、発言機会の少ない学生の

## コラム9 留学生の人間関係

いつも同国人と一緒にいて、母語で話をしている留学生を見かけることがあります。しかしこういった学生を一概に「日本人とコミュニケーションをとらずに、日本社会に適応しようとしない留学生」とみなす前にもう少し観察してみてください。ある研究報告によれば、留学生をサポートする存在としては、学業に関しては現地人（日本人）学生、一緒に遊ぶのは他国人留学生、出身文化を共有するのは同国人留学生や同文化圏の留学生がその役割を担っているそうです。もしかして、その学生は必要に応じて接する相手を変えているのかもしれない。

出身国・地域等の話題を取り上げ、これに関連する質問を投げかけるのも一つの方法です。

**Q51** 授業中のディスカッションで留学生の日本語表現力が不十分だと感じる。

**A** 運用能力が十分でない言語で話す場合、語彙や表現力が足りないことから、意図と異なることを発話してしまい、つじつまを合わせるためにまた思わぬ流れになってしまうというように、発話内容が悪循環に陥りがちです。これを克服するには、語彙や表現力を伸ばし、訓練を積むしかありません。同時に、聞き手は発話内容だけから話者の知的能力を判断しないように注意が必要です。また、母語でない言語でディスカッションに参加すること自体が大変なプレッシャーを要するということを日本人学生にも理解してもらう必要があります。留学生の発言を応援するような雰囲気をつくりだし、参加者全体のディスカッション力を上げていくことが重要でしょう。

**Q52** 留学生にとって政治的に微妙な問題について他の学生が質問したり、問題提起した時に、教員としてどのように対応すればよいか？

**A** 日本の社会では表現の自由が保障されているとはいえ、政治的な話題を取り上げることが適当でない場面もあるでしょう。政治的な話題は特定の留学生を傷つけ、授業に参加する意欲を低下させる恐れもあります。特に、言論の自由が必ずしも保障されていない国からの留学生が受講している場合には注意が必要です。時には、「その問題は大切ですが、この場で議論するのは

適切ではないと考えます。」と言う必要があるかもしれません。

ただし、分野によっては政治的な問題を扱わざるを得ない場面もあるでしょう。その場合はあくまで学問対象として議論すること、留学生に意見を押しついたり発表を強制しないこと、多様な価値観や考え方があることを尊重するなどの留意が必要です。

## Q53 留学生から「先生の話し方はわかりにくい」と言われた。

**A** 留学生は日本語の慣用表現、和製英語、カタカナの外来語などについて理解しにくいかもしれません。留学生が受講している場合は、できるだけキーワードをゆっくりと話す、キーワードを板書する、英語と日本語で併記するなどの工夫が考えられます。和製英語を用いる場合は、それが原語の語義通りなのか、あるいは日本語ではどのように語義が異なるのかを説明するとよいでしょう。

### コラム 10 留学生に活躍の機会を与えよう

ゼミ発表や実験室では緊張気味の留学生も、別の場面では水を得た魚のように生き活きとすることがあります。現地に赴くことが困難な国からやってきている留学生は、現地の最新状況を聞くことのできる貴重な存在です。また、学会等で海外からゲストを招聘する際にも、留学生にアテンド役をお願いすると、日本の文化をクリティカルな視点から紹介してもらえるかもしれません。留学生本人にとってもよい勉強の機会になるでしょう。パーティーの場で民族音楽や民謡を披露してもらうのもおもしろいかもしれません（強要してはいけません）。受け入れた留学生の長所や得意技を一つでも多く見つけてあげましょう。



**Q54** 受講生が多数いるなかで、留学生が授業内容を理解しているかを個別に確認することは難しい。どうしたらよいか。

**A** たとえば、毎回の授業の最後に受講者に記名式のコメントカードを書いてもらい、それをTAに集計してもらうのはどうでしょうか。コメントカードは日本語でも英語でもどちらでもOKにすれば、かなり書きやすくなると思われます。小テストを実施して理解度を確認するのもよいでしょう。

**Q55** 授業中に帽子をかぶったままの留学生がいる。注意してよいのだろうか。

**A** 授業の基本ルールについては、シラバスに明記するなり、初回の授業のときに受講者にはっきりと伝える、または授業の細かいルールを受講者と話し合っ決めて決めるなどの方法をとってください。授業中に帽子をかぶったままであることなどが、教員や他の学生にとって不快であると判断されるのであれば、個別にその旨を伝えてください。ただし、ケガや病気、宗教的な理由などにより帽子やスカーフをかぶっていると思われる留学生に対しては配慮が必要です。

**Q56** 留学生から、旧正月の前に帰国したいと言われた。まだ後期の授業が残っているし、期末試験もある。どうしたらよいか。

**A** 履修途中で一時帰国するような場合は、やむを得ない事例を除き、受講者としての責任をきちんと果たすように伝えてください。代替措置としては、休む回の課題をあらかじめ提出させたり、レポート課題を出すなどの方法があるでしょう。

多くのアジア出身留学生の場合、旧正月（中国では春節、韓国ではソルラル、ベトナムではテト、モンゴルではツァガンサル）は家族にとって重要な意味をもちます。イスラム暦やイラン暦もそれぞれの正月があります。また、キリスト教徒の人にとってはクリスマスが一年で最も重要な日なので、家族と過ごすために授業や補講に出られないと申し出る学生がいるかもしれません。

日本では旧正月やクリスマス休暇の習慣がないので、一時帰国したいときは、受講申請する際に担当教員に申し出るようにさせてください。特に旧正月の時期はちょうど後期授業の最終回や期末試験にあたることが多いです。試験を受けられないのであれば、あらかじめ他の成績評価手段を考えなければなりません。「旧正月ですから帰国します」と直前になって連絡したり、無断で欠席するのは認められないということをはっきりと伝えて下さい。

## 2-4. 研究指導を行う

**Q57** 研究室内のメンバーの英語レベルに差があり、コミュニケーションがうまく取れないことが多々ある。日本人大学院生の英語能力が必ずしも十分ではないので、学生間のコミュニケーションがうまくいかない。

**A** 研究室内における留学生の日本語能力不足、日本人学生の英語能力不足は多くの教員が指摘しています。留学生が日本語能力を高めるように支援することは大事ですが、同時に、専門分野の内容について英語で議論をすることは日本人学生にとっ

でも重要です。この際、研究室全体の英語力アップをめざすのもよいでしょう。たとえば、専門用語の日英対訳集を作ってみたり、日本人学生にも定期的に英語で発表させるなど、教員側からいろいろ工夫することが可能です。

## Q58 個々の大学院生に対する研究指導が不公平だと留学生から指摘された。

**A** 研究指導では、大学院生の研究内容や個性に応じて指導方法が異なるのは当然のことです。しかし、ある学生には丁寧に指導し、別の学生には自主性に任せるような場合、学生側が不公平感を感じることもあるかもしれません。まず、研究指導の基本ポリシーを研究室の学生全員に示してはいかがでしょうか。論文指導を受けるのは早い者勝ちなのか、それとも別のルールがあるのか。ゼミ発表する際に学生が準備することなどについて、あらかじめ伝えておくとよいでしょう。

## Q59 なかなか指導教員に会えないとの苦情が留学生から寄せられている。どう対応したらよいか？

**A** 大学教員と面談するのに予約（アポイントメント）をとる習慣がない国は少なくありません。そういう国から来日した留学生には、日本の大学の人間関係がビジネスライクに映るかもしれません。まず、日本の大学において教員と面談するためには、事前に予約する必要があるということを留学生に伝えてください。教員が忙しくて面談の予約をとれないのなら、メールを活用するなどの代替案を留学生に提案してください。

**Q60** 同じ研究室内で留学生と日本人学生の上に異性関係のトラブルがあった。どのように対応すればよいか。

**A** こうした問題を突き詰めていくと、大学教員が学生のプライバシーにどの程度介入してよいのか、という本質的な問いにつきあたります。研究室の運営に支障をきたしているような場合、学生の学習・研究活動が大きく減退しているような場合は放置すべきではないでしょう。中立的な立場から関係する学生に事情を慎重に聞いてみてください。学生の個人情報の取り扱いにはくれぐれも注意してください。

### コラム 11 インフルエンザに神経質な日本社会

日本ではインフルエンザが流行すると、テレビ等のマスコミでその症状や対処について過剰なまでに報道されます。受験や論文の締め切りを控えている日本人学生は、インフルエンザに対して神経質になります。しかし、留学生のなかには日本人学生ほど多くの情報を得られず、その症状に対してそれほど大きな注意を払わない人もいます。

インフルエンザが流行している時期に、咳と熱のある留学生が2日間だけ休んで、早くも3日目に研究室に出てきたことがありました。それに対し、一部の日本人学生が強い抗議をし、せめてマスクをするように指示をしました。その留学生はそれを聞き入れず、研究室で黙々と研究を進めました。そのことが、日本人学生と留学生の間で大きな衝突を招きました。

最終的には関係者による話し合いの場を持ち、お互いの落ち度と不理解を反省し、謝罪しあうことで一件落ち着きました。学生たちは、教員の見えないところで異文化衝突をしていることがあります。

留学生が研究室内でどのように過ごしているかについて、教員はふだんから気にかけておきましょう。問題が深刻な場合は、各学部や研究科の留学生担当教員あるいは全学の留学生相談室に相談すると、よい方法が見つかるかもしれません。

**Q61** 留学生が研究室のなかで孤立しがちである。どうしたらよいか。

**A** 留学生が研究室内で孤立してしまう原因は何でしょうか。留学生の日本語能力に問題があるなら、留学生センターで開講している日本語の授業を受講するように勧めましょう。日本人学生の英語能力に問題があるのなら、前述のように、研究室全体の英語力を高める方策を考えるとよいでしょう。もし言語の問題ではなくて、文化的な要因によるものだとしたら、別のアプローチが必要かもしれません。留学生がホームシックになっているような場合は、教員から積極的に留学生に声をかけ、相談にのるだけでも彼らの気分が和らぐことがあります。コンパや旅行、スポーツ大会、合宿など、研究室内の人間的なつながりを深めるための活動を企画するのも一考です。それでもうまくいかない時は、場合によっては、所属研究室を変更することを検討する必要があるかもしれません。

**Q62** 子どもの世話に忙しかったり、病気がちだったりして、勉強時間が十分とれない留学生がいる。

**A** 留学生に限らず、学生にはやむを得ない事情で学習・研究に十分に打ち込めないことがあります。その状況では、学生自身が焦っていることも多いので、教員側から必要以上にプレッ

シャーをかけないように注意が必要です。また、なかなか時間をとれない状況でもコツコツと学習・研究を進められる方法を考えるなど、長い目で学生を見守るようにしてください。

**Q63** 留学生が休学をしたいと言っている。どのように対応すればよいか。

**A** 留学生がなぜ休学したいのかを確認して下さい。たとえそれが経済的な理由であっても、休学中にアルバイトをすることは認められていませんので、いったん帰国することを勧めてください。

休学願の提出期限については教務に確認する必要があります。その場合、直前ではなく時間的な余裕をもって教務窓口にご相談するように伝えてください。また、休学中は在留期間の更新手続を行うことができませんので、復学時に再度取得手続を行う必要があります。休学前にアパートを解約する場合、名古屋大学留学生後援会による賃貸住宅連帯保証に加入している人は国際学生交流課で手続きする必要があります。休学するために、むしろ一時的に多額の費用がかかることがありますので、留学生にはくれぐれも慎重に検討させてください。

**Q64** 研究計画書に書かれた内容と来日後に本人が希望する研究内容が異なっている。

**A** こうした現象には、いくつかのケースが考えられます。第一に、来日後に学習環境の変化に伴って研究関心が大きく変化したケース。第二に、本人が研究計画書を作成する際に、合格しやすいように、受け入れ教員の専門分野に近いテーマを設定し

たケース。この場合は、本人が実際にやりたいテーマは別にあるかもしれません。第三は、最悪の場合ですが、研究計画書を本人ではなく、留学仲介業者などの第三者が作成しているケースです。対応方法としては、①研究計画書を本人が書いたものであるかどうかを受け入れ時に入念にチェックする（口頭だけで研究計画についてやりとりするなど）、②教員の研究テーマに安易に合わせているような研究計画書になっていないかを厳しく精査する、③入学後に、安易に研究テーマを変えることは望ましくないということを留学生に伝える、などの方法が考えられます。

## **Q65** 受験時や入学時の意気込みとその後の差が大きく、なかなか研究がスムーズに進まない留学生がいる。

**A** 留学生の学習意欲が低下した原因について本人と話してみてください。たとえばホームシックが原因かもしれません。異国で初めての一人暮らしに心細くなっているかもしれません。チューターとよく相談する機会を設けたり、同じ国から来ている留学生を紹介したりして、学生同士のコミュニケーションを増やす機会を提供するのも一考です。

あるいは、留学生の生活環境に問題があるかもしれません。大学内の留学生宿舎には原則として半年間しか入居できません。アパート探しや引っ越しにいろいろ手間取っているかもしれませんので、指導教員は留学生が困っていないか、ときどき声をかけるとよいでしょう。日本語能力に問題がある場合ならば、日本語の授業を履修することを勧めたり、同じ分野の日本人学生を紹介することも考えられます。

**Q66** 博士後期課程の留学生には3年間で確実に学位を出すことを優先するので、おのずと研究テーマが限られてしまう。

**A** 受け入れた留学生が最短期間での学位取得を望んでいるか、それとも多少の期間延長と経済的負担を覚悟した上で、より本格的な研究テーマにチャレンジしたいと考えているかどうかについて、進学時に留学生本人に直接確認する必要があります。本学の課程博士は後期課程進学後、6年以内であれば授与されています。つまり、制度上はD3満期退学後も3年間の猶予があります(医学系を除く)。とはいえ、留学生にとってはビザの在留期間更新のために在学延長する必要があり、延長分の授業料や生活費も必要になります。指導教員は留学生のそうした事情を考慮した上で、彼らがどのようなニーズを持っているのかをよく確認してください。

**Q67** 別の教員から引き継いだ留学生については、前任者と私の研究指導方法に関する考え方の違いから、留学生を少し戸惑わせてしまったようだ。

**A** 指導教員の途中交替は、留学生に限らず大学院生に大きなストレスとなることがあります。やむを得ない理由により、自分が指導してきた留学生を別の教員に引き継ぐ際には、これまで留学生との間で交わしてきた話し合いのプロセスや合意した研究方針・内容について記録やメモに残し、新しい指導教員に引き継ぐことが大切です。自分が留学生の指導教員を途中から引き継ぐ場合は、前任者と留学生の間で合意された内容をできるだけ尊重すると同時に、自分なりの研究指導の方針を明確に伝えましょう。



**Q68** 学位をとれないのは指導教員の責任であるという意識をもつ留学生がいた。

**A** 指導教員が果たすべき役割について、指導教員と留学生の間で誤解が生じているかもしれません。留学生を受け入れる段階で、あなたが指導教員として彼らの学位論文作成にどのような支援を行うのか、どのような役割を果たすのかについて、よく説明して留学生の理解をとってください。留学生が困ったときに指導教員はどのように対応するのかについて、最初の段階で彼らに明確に伝えておきましょう。

**Q69** できていないことでも「できた」と答えるなど、その場限りの返事をしがちな留学生が見受けられる。

**A** 外国語で質問された際に、本音ではノーなのに、ついイエスと答えてしまうことが少なくありません。ノーと意思表示すること自体が、相手に対して失礼ではないかと思ってしまう留学生もいるかもしれません。場合によってはノーをはっきり表示することが重要であり、指導教員としてはむしろそれを歓迎するという姿勢を示せば、留学生もノーと言いやすくなるでしょう。

**Q70** 日本になじまないような態度を遠慮なく見せる留学生がいる。日本人学生がやや不快に受け取ることもある。受け入れ教員としてどの程度指導すべきか。

**A** どうしてそのような態度をとるのか、他の学生がいないところでその留学生に尋ねてみて下さい。その留学生は日本での

生活や学習について、何らかの思い込みや偏見を抱いているかもしれません。もし誤解に基づくものならばそれを説明してください。また、日本特有の考えや価値観から日本人学生が不快に感じているようであれば、教員は中立的な立場から学生たちにアドバイスして下さい。

## Q71 何でもメールで済ませようとする留学生がいる。

**A** これは今日の多くの学生にみられる傾向かもしれません。若者の間で、コミュニケーションに対する考え方が変化しているのかもしれません。留学生の場合は、直接話すことに苦手意識をより強く持っていることもあり得ます。必要に応じて、重要なことはメールではなく、直接会って伝えてほしいと教員からはっきり意思表示しましょう。

## Q72 「なんでもとりあえずコピーする」という姿勢の留学生がいる。

**A** そういう留学生には、なぜコピーすることがよくないのかを説明して下さい。彼らが安易にコピーしてしまう背景には、母国ではコピー行為がありふれており、教員すら気に留めていない社会背景が存在しているかもしれません。子どもの頃から慣れ親しんだ習慣や、母国では家族や学校の教員も当然視している行為について、それが日本では認められないことだけを訴えても、彼らの意識を変えるのは容易ではありません。

知的所有権や著作権には他者の知的成果を尊重するという意味が込められていることを伝えて下さい。そして、日本の大学で学び、研究を行う際には、それらを守ることが必須であり、

不注意では済まされないということをはっきりと伝えることが重要です。

## Q73 専門分野の研究手法を身につけていない留学生がいる。

**A** 各学部・研究科において、入学時点での程度の専門知識や研究能力が求められているのでしょうか。各専門分野に必要な基礎知識は国によって異なる場合があります。留学生によっては、母国における学士課程の大部分を日本語習得に費やしており、大学院で日本留学する際に専門分野を決める場合も少なくありません。この場合、留学先の学問分野に関する知識が十分でないケースがみられます。

教員と留学生の双方にとって不幸な状態を招かないためにも、入学時に最低限身につけておくべき基礎知識や研究能力について、あらかじめ志願者に明示するのが望ましいでしょう。学部・研究科単位でそうした基準が明確になっていない場合は、研究室や講座単位で受け入れ基準を設けるという方法もあるでしょう。あるいは、自習用の教材を紹介したり、追加受講すべき授業について明示してください。

## Q74 一定水準の知識はあるのだが、自分で考える習慣に乏しい留学生がいる。受身的な学習は得意だが、自主的に研究をさせようとすると、困惑してしまう場合がみられる。

**A** こうした意見は多くの教員から寄せられています。世界の少なからぬ国・地域では、学校教育は教員が知識を一方的に伝達する講義方式が主流となっています。その際に学生に求められているのは、与えられた知識を忠実に吸収することであり、

与えられた知識の是非を疑ったり、批判的に検証することではありません。教員の主張を相対的に受け止めて、自分なりに再解釈するという考え方は欧米諸国や日本の大学では奨励されていますが、この考え方が世界のすべての国の大学教育に当てはまるわけではありません。こうした国・地域からやってきた留学生はセミナーやディスカッション、輪講などの意味を理解できない、あるいは教員が知識を体系立てて教えてくれないと不満に感じる場合があります。

指導教員としては、留学生に次のような意思表示をしてはどうでしょうか。日本の高等教育では学習・研究について次のようなスタンスをとっていること、すなわち最新の知見は形成途上であり、必ずしも定式化されているわけではないということ、教員の意見はさまざまな意見のうちの一つの見解に過ぎないこと、教員は学生の多様な意見を尊重すること、研究には能動的な学習姿勢が不可欠なこと、自分の知見に磨きをかける上で周囲の教員・学生と議論を重ねることが大事なこと、研究活動においては知識の獲得以上に研究方法論の習得が大きな意味をもつこと、などです。

## コラム 12 留学生の郷土料理に舌つづみ

私の知っている研究室では、年末になると留学生たちがそれぞれの郷土料理を手づくりで持ってきて大学内でパーティーを開きます。ふだん見たこともない料理が並び、壮観です。ふだんは緊張してゼミ発表している留学生も、この日ばかりはリラックスした雰囲気でお国自慢を聞かせてくれます。日本人学生も負けじと知恵を絞って、いろいろなものを持参してきます。教員の私も、ごちそうを食べているばかりではなくて、そろそろ何か一芸をやらなければと思案しているところです。

**Q75** 先行研究がないと安易に断定する留学生がいる。先行研究を踏まえて論を立てていくことに困難を感じているようである。

**A** 国・地域によっては、先行研究を調べるということの意味が日本と異なる場合があります。留学生の出身国の学术论文では、先行研究がどのように扱われているのかを尋ねてみましょう。あるいは、留学生の出身国では、学术论文が政府見解や先行研究を羅列しただけになっている場合もあるかもしれません。そういう場合は、「論を立てる」ということの意味自体を説明する必要があるのでしょう。

日本で学習・研究する際に、先行研究を調べるとはどういうことを意味するのか、なぜ先行研究を検証する必要があるのか、仮説を立てて検証するとはどういうことかを丁寧に説明してあげて下さい（たとえば日本人の大学院生にこのことを説明させるのもよいかもしれません）。留学生の母国と日本では、この点でどのような相違があるのかを留学生によく理解させて下さい。

## 3. 名古屋大学の教員からのメッセージ

---

(抜粋)

### 3-1. 留学生を受け入れる際に留意していること

- それぞれの国の文化や習慣を尊重することが大事だと思っています。また、英語を話す留学生がいることで、日本人学生にも良い刺激になっていると思います。(農学部／生命農学研究科)
- たとえば廊下ですれ違った時でも、できるだけ声をかけるようにしています。何気ない会話で留学生の変化をつかむことができます。(文学部／文学研究科)
- 留学先での生活は、留学生にとって期待と不安でいっぱいだと思います。私のできる範囲で少しでもその不安を取り除くことができればと考えております。(医学部／医学系研究科)
- 受け入れ研究室の歓迎ぶり一つも、留学生の研究生活に大きな影響を与えます。(医学部／医学系研究科)
- できるだけ早い段階で日本人学生のチューターを付け、留学生が彼らを通じて日本人の友人を増やすことができるように心がけています。留学生が自分たちだけの社会に閉じこもらないようにするために、また日本語能力を伸ばすために、日本人学生との交流の機会を増やすことは重要だと考えます。(法政国際教育協力研究センター)
- 言葉や文化の違いによって留学生が不当に不利益を被らないよう

に心がけています。過去の日本人留学生が大志を抱いて海外でがんばったように、留学生諸君の多くは青雲の志を持っていることを忘れないように心がけています。 (工学部／工学研究科)

- 留学生の出身国に興味を持つようにしています。 (国際言語文化研究科)
- 日本では当然の前提とされていることでも、留学生にとっては当然でないことはよくあります。そうした点を早期に発見、対処することが重要だと考えています。 (法学部／法学研究科)
- なるべくオープンマインドで接するようにしています。日本人学生の刺激になります。またまじめな学生も多く、研究も進みます。個人的にはもっと受け入れたいのだが、奨学金が不足しているのが問題です。 (地球水循環研究センター)
- 日本人学生とのコミュニケーションを積極的にとれるような環境づくりに心がけてきました。 (工学部／工学研究科)
- 留学するくらいだから積極的な人物かと思っていると、意外とシャイだったりするので、本人の性格をきちんと理解してあげられるように努めています。 (太陽地球環境研究所)
- 活動的な留学生が研究室に加わることで、研究室全体が活性化されることを期待しています。 (工学部／工学研究科)
- なるべくコミュニケーションをとるよう、心がけています。 (環境学研究科)

- 文化の違いと歴史に関する発言に気をつけています。言葉の壁から、日本語での指示について表現が厳しくなってしまう場合があるので注意しています。(情報科学研究科)
- できるだけ前向きに評価してあげるようにし、自分からやる気を出す環境をつくるようにしています。(経済学部／経済学研究科)
- 留学生との交流に積極的な日本人学生の助けも借りて、出身が同じ者同士だけで固まらず、できるだけ広い人間関係を築けるような環境をつくることに努めています。(文学部／文学研究科)
- 日本人学生にできるだけコミュニケーションしてもらうように努力しています。(工学部／工学研究科)
- 個人的に留学生とよく話すようにしている。特に母国の話題を取り上げるように心がけた(なかなかなじまなかった留学生が、その話をすると心を開いてくれたので)。(環境医学研究所)
- 英語しか話せない学生には、なるべくコミュニケーションをとることを心がけています。それ以外の点は日本人学生と同様に接しています。(情報科学研究科)
- 日本人学生と分け隔てなく接する努力をしています。(環境学研究科)
- 留学先の大学名は人生のかなり長い間ついてくるので、名古屋大学がより高い評価を得ていくのが大切であり、学生たちの力も大きいことを伝えたい。(留学生センター)



- 名古屋大学で学んだという事実が充実感とともに感じられるように、教員として尽力したいと思うし、そのための工夫をしたい。  
(国際言語文化研究科)
- 留学生活に耐えられるだけの学力と精神力や経済力が必要になります。受け入れの際には、その閾値を超えることができそうかをチェックします。熱意のある学生に対しては、できる限りのサポートをするように心がけています。  
(工学部／工学研究科)
- 留学生には正確な情報を伝えることが重要だと思います。奨学金情報、学費免除など、根拠のない噂を信じている人も多いので。  
(国際交流協力推進本部)

## 3-2. 留学生へのメッセージ

- 英語下手な日本人学生にも積極的に英語で話してもらい、日本人学生に刺激を与えてほしい。  
(農学部／生命農学研究科)
- 目標を高く掲げ、楽しく過ごしてもらいたい。  
(医学部／医学系研究科)
- 私自身、海外留学した当初は授業中になかなか発言できず、苦労しました。そうした体験を留学生には話し、緊張せずに私の授業には出席してほしい、最初のうちはうまくしゃべれなくとも、積極的に発言してほしい、というメッセージを常に受講生に伝えています。  
(国際言語文化研究科)

- 自らの工夫を加えて結果を出すことを奨励しています。  
(地球水循環研究センター)
  
- 留学生たちにとっては世界が舞台であり活躍できることに気づいてもらいたいです。留学の成果は長い間かけて熟成するものであるので、一時的には困難や苦労もあるでしょうが、積極的に前向きに取り組むよう伝えていきたいです。さまざまな可能性を検討したうえで、いったん決断したら他はあきらめる見極めも必要だと伝えています。  
(留学生センター)
  
- 留学生には、日本人にないハングリー精神でよい成果を残してくれることを期待しています。学生間の中で文化交流が進むことも期待しています。  
(情報科学研究科)
  
- なぜ日本に行きたいのか、日本で何を学びたいのかをきちんと考えた上で、日本に来てほしいと思います。研究や留学の目的を見失って、単に外国でぼんやりと過ごして帰るだけの日々とならないように、目的意識・学習意欲を高めてほしいです。  
(法政国際教育協力研究センター)
  
- 国に帰ってから偉くなって下さい、と伝えています。帰国後、大学教員になる者については、共同研究のお願いとさらなる優秀な留学生の派遣をお願いしています。  
(教養教育院)
  
- 世界的に活躍する人材になって欲しいと思っている。ガラガラとした意欲を見せて、日本人を驚かせてほしい。  
(工学部／工学研究科)

- 名古屋大学でしっかり学び、母国の発展に貢献してもらいたい。  
そうした実力を身につけて卒業してもらいたい。  
(エコトピア科学研究所)
- 留学生の研究については、日本の専門雑誌に論文が掲載されるような水準の高い研究を求めています。私たちの時代にはアジアの留学生と身近なところで日常的に接触する機会はなかったので、今は絶好の機会だと思います。日本人学生にはいろいろな面での留学生へのサポートはもちろん、積極的にいろいろなテーマについて議論をするように勧めています。 (文学部／文学研究科)
- 日本にアルバイトをしに来るのが目的ではないはず。基礎知識がなかったら勉強するしかありません。 (工学部／工学研究科)
- 学内では国際化や英語化の動きがさかんです。それを実現するための大前提は、学生ひとりひとりの「無償の好奇心」と「自分の視野を広げたい」という意欲です。留学生にも、「そうした内発的な動機が何よりも大事だ」ということを言い続けています。もちろん、日本人の学生諸君に向けても同じことをいつも言っています。 (国際言語文化研究科)
- 学位取得後は自国に戻って貢献するように伝えています。実力があれば種々のポジションに積極的に応募し、国際的に活躍することを期待しています。 (地球水循環研究センター)
- 日本に来て研究をする以上、日本語は無論のこと、日本の習慣や文化のよい部分を積極的に吸収してほしいと考えています。このため、英語のみでのコミュニケーションに甘えない、「お客さん

的」態度は許さないという部分はしっかり伝えているつもりです。  
(高等研究院)

- せっかく日本に来たのだから、日本の文化や習慣を理解してほしいし、できれば日本語を勉強してほしい。日本人学生にとっては、外国の様々な文化や習慣を理解できる良い機会であるので、積極的に日本人学生と関わってほしい。(エコトピア科学研究所)
- 異なる文化を理解するように、世間的な話も交えて指導しています。(エコトピア科学研究所)
- 研究室内の日本人学生と積極的に交流する姿勢がほしいと思います。(農学部／生命農学研究科)
- 留学生には、来日後早い段階で日本人の友人をつくるように奨励しています。それによって、日本語能力が飛躍的に向上し、日常の悩みが軽減し、日本に対する誤った先入観を払拭することができます。大学の中だけでなく、街に出たり、旅行をするなどの経験を通して、いろいろな日本人と知り合うことも奨めています。(工学部／工学研究科)
- 時間を守る、日本語を少しでも話すようにする、の2点を伝えています。(医学部／医学系研究科)
- 言葉の壁は少しずつだが時間とともに必ず消えるもの。あきらめないことは何にも代え難い大きな能力です。困ったら周りの学生や教員に遠慮なく相談しなさい。ほとんどの人たちが君たちの力になるはずだから。(環境学研究科)

- 留学生にはやはり日本語をしっかり勉強してもらうように指導しています。日本語ができないと、地域や友人関係などに支障が出て、適応できない場合があるからです。また、せっかく日本に来ているので、日本文化を知るという意味でも日本語の習得は重要だと思います。指導教員の指導は限界があるので、自分から積極的に周囲にサポートを求めてもらいたいと思っています。

(教育学部／教育発達科学研究科)

- きちんとした日本語、メール上の礼儀などを伝えるよう心がけています。諸般の事情はあるでしょうが、できるだけ経済的問題をクリアした上で進学し、学業に完全に専念してほしい。

(国際言語文化研究科)

## 4. 留学生を受け入れる際の参考情報

---

### 4-1. 入学前の受け入れ手続きについて

- 日本留学について外国語で提供されている情報を知りたい  
独立行政法人 日本学生支援機構  
[http://www.jasso.go.jp/study\\_j/sgtj.html](http://www.jasso.go.jp/study_j/sgtj.html)  
\* 日本留学に関する基本情報をさまざまな言語で提供しています。
- 私費留学生在が受験する日本留学試験について知りたい  
独立行政法人 日本学生支援機構ホームページ  
<http://www.jasso.go.jp/eju/index.html>  
\* 実施要領、過去の問題、受験方法などについて詳細に記載されています。
- 名古屋大学が実施している私費外国人留学生入試（学部入試）について知りたい  
名古屋大学ホームページ  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/admission/applicant/admis-judge/pers-fund.html>  
\* 募集要項は下記のページからPDFで全文ダウンロード可能です。  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/admission/guide/pamphlet/>
- 名古屋大学の大学院入試について知りたい  
名古屋大学ホームページ  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/admission/gs-exam/gs-exam-guide/>  
\* 各研究科の教務窓口にお尋ねください。上記のサイトはすべての研究科の入試情報への入口になります。

■名古屋大学の研究生や科目等履修生の制度について知りたい  
名古屋大学ホームページ

<http://www.nagoya-u.ac.jp/admission/gs-exam/risyu-guide/>

\*募集要項については各研究科の教務窓口にお尋ねください。

■「グローバル30」による名古屋大学の新しい教育プログラムについて知りたい

名古屋大学国際交流協力推進本部 国際アドミッションオフィス

<http://admissions.g30.nagoya-u.ac.jp/jp/>

内線6556

[apply@g30.nagoya-u.ac.jp](mailto:apply@g30.nagoya-u.ac.jp)

\*名古屋大学では平成23年10月から、国際化拠点整備事業（グローバル30）により、外国人留学生と日本人帰国子女等を対象に、英語のみによる授業で学位が取得できる教育プログラム（国際プログラム群）を学士課程と大学院課程の両方で実施します。上記のサイトには日本語と英語の両方で詳しく説明され、オンライン上で出願できる仕組みになっています。

■日本の留学生受け入れ政策や制度について知りたい

文部科学省ホームページ

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/1288634.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1288634.htm)

\*日本の留学生受け入れ及び送り出し制度の概要について説明しています。

■ 留学生の受け入れや派遣についてより深く学びたい

JAFSA（国際教育交流協議会）

<http://www.jafsa.org/>

\* JAFSAは、大学の国際教育交流に関する情報交換・調査・研究・研修・出版・提言等の諸活動を行っています。200以上の国内大学・教育機関を会員とするネットワーク組織です。

■ 文部科学省の国費奨学金制度について詳細を知りたい

文部科学省ホームページ

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/06032818.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/06032818.htm)

\* 奨学金の実施要項や通知、調査報告などを掲載しています。

■ 留学生やその家族の日本在留資格について具体的に照会したい

名古屋入国管理局 留学・研修審査部門

052-559-2117, 2118（受付時間：平日9～16時）

名古屋入国管理局 外国人在留総合インフォメーションセンター

052-559-2151, 2152（英語、韓国語、中国語、スペイン語等での

問い合わせにも対応可能）

\* 留学生やその扶養家族の日本在留資格申請、認定、更新、変更などについての情報提供や手続き方法についての問い合わせに対応しています。一般的な規則や手続きについては入国管理局のホームページをごらんください。

<http://www.immi-moj.go.jp>



## 4-2. 日常生活について

- 愛知県内において外国人が生活するのに役立つローカル情報を知りたい

愛知県国際交流協会 相談情報カウンター

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/indexj.html>

052-961-7902（月～土：10～18時）ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語対応可。

\* 愛知県国際交流協会は県内の在住外国人用にさまざまな生活情報を提供しています。小冊子「愛知生活便利帳」を英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語で刊行しています。在留手続き、外国人登録、労働、結婚、出産・育児、教育、医療、税金、日常生活、交通、緊急時等に関する情報が掲載されており、ダウンロードも可能です。

- 留学生の生活に関する情報を得たい。法律的な問題を相談したい  
名古屋国際センター

<http://www.nic-nagoya.or.jp/>

052-581-0100

\* 外国人に有益な情報提供や相談を、各国語を話す相談員が行っています。月刊英文情報誌 Nagoya Calendar を編集・発行しています。

- 家族で数年間滞在できる安価な公営住宅について情報を得たい  
名古屋市「住まいの窓口」（栄地下街）

052-259-2672（10～19時：木曜、第2・4水曜休み）

\* 市営住宅・県営住宅の募集状況の情報を提供し、申し込みを受けつけています。

■ 外国語で対応が可能な医療機関を見つけたい

愛知県救急医療情報システム

[http://www.qq.pref.aichi.jp/es/qq/qq23tpmp\\_lt.asp](http://www.qq.pref.aichi.jp/es/qq/qq23tpmp_lt.asp)

050-5810-5884 (5ヶ国語の音声・FAXによる自動応答案内)

\* 英語、ポルトガル語、中国語、ハンゲル語、スペイン語で対応可能な医療機関をウェブで案内しています。

■ 留学生がけがをした、病気になった

名古屋大学保健管理室

<http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/hokenkanri/>

内線3970

\* 学生の身体および精神健康に関する相談を受け付けている(精神健康相談は予約制)。診察、検査、治療を行っています。

■ 留学生がメンタル面の問題を抱えている

名古屋大学留学生相談室

<http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/>

内線6117

\* 留学生相談室にはカウンセラーの教員が在籍しています。

なお、名古屋大学留学生相談室は、平成23(2011)年4月より留学生センターのアドバイジング・カウンセリング部門として改組されます。

■ 障害をもった留学生のためのサポートを必要としている

名古屋大学障害学生支援室

[sg-sien@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp](mailto:sg-sien@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp)

内線5805 (10~17時：平日)

\* 学生相談総合センター内に障害学生支援室が設置されています。車イスの介助、各種ノートテイクなどのサービスを受けることができます。

### ■アパートの保証人を頼まれた

名古屋大学国際部国際学生交流課内 名古屋大学留学生後援会

<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/kouenkai/>

内線2166

- \*名古屋大学留学生後援会が一定の範囲内で連帯保証人になってくれます（機関保証制度）。（財団法人日本国際教育支援協会の「留学生住宅総合補償」制度に加入することが条件）

### ■留学生のために貸付金を申請したい

名古屋大学国際部国際学生交流課内 名古屋大学留学生後援会

<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/kouenkai/>

内線5733

- \*最高5万円まで、3か月以内に返却することを条件に無利子で貸し付けています。

### ■留学生がハラスメントの被害に遭っている

名古屋大学ハラスメント相談センター

<http://www.sh-help.provost.nagoya-u.ac.jp/>

内線5806

- \*相談者の立場に立った助言、カウンセリングを行っています。カウンセリングを通し、本人と一緒にさまざまな解決策を考えていく中で、必要に応じ、調停あるいは事実調査等の苦情処理手続きの案内を行っています。

### ■ 留学生の配偶者や子どもへのサポートについて知りたい

名古屋大学留学生相談室 「留学生の家族のための日本語・日本事情コース」

<http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/family/nihongo.html>

内線6117

\*このコースは、名古屋栄ライオンズクラブの後援を受けて、名古屋大学留学生会（NUFSA）の主催で運営しています。日本語教育専門の講師による週2回の授業で、日本語や日本の生活などについて教えています。教室での授業以外にも、校外学習やパス旅行、サマーパーティ、イヤーエンドパーティなどのイベントがあります。

### ■ 留学生にホームステイの体験をさせたい

名古屋大学留学生相談室 「地球家族プログラム」

<http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/exchange/homestay.html>

内線6117

\*このプログラムは一般の家庭の人々と留学生が日常レベルで交流し、国際理解を深めることを目的としています。

### ■ 留学生から、親族が一時的に日本を訪問する際の保証人になってほしいと頼まれた

外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/visa/index.html>

手続きの概要及び必要書類をダウンロードできます。申請者の国籍により手続きが異なるので、注意が必要です。

## ■ 留学生のためのアルバイト情報について知りたい

名古屋大学留学生センターの掲示板

- \* 留学生センターは国際開発研究科の向かい側、生協食堂フレンドリー南部の隣にあります。留学生のためのアルバイト情報を随時掲示しています。

## ■ 私費留学生のための奨学金情報について知りたい

独立行政法人 日本学生支援機構

[http://www.jasso.go.jp/study\\_j/scholarships.html](http://www.jasso.go.jp/study_j/scholarships.html)

- \* 私費留学生への学習奨励費のみならず、さまざまな奨学金についての情報が掲載されています。

## ■ 留学生の就職情報について知りたい

名古屋大学学生総合支援課の就職支援室

<http://www.nagoya-u.ac.jp/academics/career/career/>

内線2176

- \* 就職支援室では年間を通じていろいろな就職関係のイベントを全学対象や学年別に開催しています。

名古屋大学留学生相談室

<http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/>

内線6117

- \* 留学生相談室では留学生に特化した求人情報を提供するとともに、留学生対象の会社説明会の開催、就職活動支援コースを開講して、留学生の就職を支援しています。留学生の就職関係の刊行物など参考になるものもそろえています。

## 4-3. 授業や研究指導について

### ■ 留学生に日本語の授業を履修させたい

留学生センター 日本語プログラム

<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/japanese/gaiyo.html>

内線2198

\*さまざまなレベルや学習内容に対応する日本語授業を提供しています（一定期間内の申込が必要です）。

### ■ 留学生に適した教授法について知りたい

名古屋大学高等教育研究センター「成長するティップス先生」の第10章「学生の多様性に配慮する」

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/basics/consideration/index.html>

\*留学生の学習を支援するための方法について紹介しています。

### ■ 留学生のアカデミックスキルを高めたい

名古屋大学高等教育研究センター

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/service/>

内線5696（事務室：平日9～16時）

\*高等教育研究センターと附属図書館では、大学院生や学部生のアカデミックスキルを高めるための各種セミナーを随時行っています。たとえば、研究発表をする時のスキル、TAを担当するときに必要なこと、レポート作成のスキル、プレゼンテーションのスキルなどを扱っています。セミナーの案内は附属図書館でも行っています。

また、将来大学教員をめざす名大内の大学院生やポスドクを対象に、教育発達科学研究科の正規科目として大学教員準備講座

を開設しています（平成23年度は8月上旬に集中講義「高等教育学研究Ⅰ」として開講予定）。この授業では、ティーチングの基本など、大学教員のさまざまな職務に必要な基礎知識とスキルを学びます。多様な研究科から多様な国籍の大学院生が受講するのを歓迎しています。

#### ■ 英語で授業を行う際に留意すべきことを知りたい

名古屋大学高等教育研究センター

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/service/fd/>

[info@cshe.nagoya-u.ac.jp](mailto:info@cshe.nagoya-u.ac.jp)

- \* 高等教育研究センターでは、さまざまなニーズに応じた教員研修プログラムや各種セミナーを提供しています。英語による授業事例を収録したDVDの学内貸出サービスも行っています。また、名古屋大学の教員が中心となって制作した『大学教員のための教室英語表現300』（中井俊樹編、アルク社）には、大学の授業を英語で行う際に必要となる基本例文300がまとめられています（CD付）。

メルボルン大学高等教育研究センター

Centre for the Study of Higher Education, The University of Melbourne, Australia

<http://www.cshe.unimelb.edu.au/pdfs/international.pdf>

- \* 上記ホームページには Teaching International Students: Strategies to enhance learning という名称のハンドブックがPDFで掲載されています（英文）。留学生を教える際に教員が留意すべき要点について簡潔にまとめられています。

## ■ 留学生に適した研究指導方法について知りたい

名古屋大学高等教育研究センター

[http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/staff/chikada/Eleven\\_Practices\\_of\\_Effective\\_Postgraduate\\_Supervisors.pdf](http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/staff/chikada/Eleven_Practices_of_Effective_Postgraduate_Supervisors.pdf)

\*メルボルン大学高等教育研究センターが制作した研究指導ハンドブック(Eleven Practices of Effective Postgraduate Supervisors)の日本語訳『研究指導を成功させる方法－学位論文の作成をどう支援するか』をPDFで掲載してあります。ただし、内容は研究指導全般について扱っており、対象を留学生だけに限定するものではありません。

\*上記の他、留学生に対する授業や研究指導については、インターネット上でTeaching International Studentsや、Supervising International Studentsなどで検索すると、世界中の大学が制作したさまざまなリソースを入手することができます。

## ■ 留学生の母国の教育制度について知りたい

文部科学省『教育指標の国際比較』平成20年度

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/index40.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index40.htm)

\*日本の教育指標や制度を、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、中国、韓国等と比較しています。

国立国会図書館の「リサーチ・ナビ」

[http://rna.nli.go.jp/research\\_guide/entry/post-283.php](http://rna.nli.go.jp/research_guide/entry/post-283.php)

\*「諸外国の教育制度・事情を調べるには」として多くのリソースが紹介されています。



外務省「世界の学校を見てみよう」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/world/kuni/index.html>

\*外務省ホームページで世界の学校事例について紹介しています。財団法人世界の動き社が発行している月刊『世界の動き』に掲載された内容です。

## ■日本の教育制度について英語で留学生に説明したい

文部科学省ホームページ

概説

<http://www.mext.go.jp/english/a01.htm>

統計

<http://www.mext.go.jp/english/statist/index.htm>

文部科学白書

<http://www.mext.go.jp/english/wp/index.htm>

## ■学位記に公印証明がほしい

外務省領事局領事サービスセンター（証明班）

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/todoke/shomei/>

\*公印証明とは、学校教育法第1条に規定された学校が発行した文書の発行者の印章（職印または機関印）の印影が真正であることを証明するものです。外務省（領事局政策課領事サービス室証明班及び大阪分室）が公印確認の証明の付与を行い、外国の関係機関にあてて外国文で発給します。

■ 留学生在が日本のアカデミックポストへの就職を希望している

独立行政法人科学技術振興機構 JREC-IN 研究者人材データベース

<http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>

- \* 日本全国の研究・教育機関の公募情報データベースです。専門分野、職種、勤務地別に公募情報を検索できます。登録すると、希望条件にマッチした求人公募情報を電子メールで受け取ることができます。

名古屋大学社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター

<http://www.b-jin.jp/>

内線6490

[support@b-jin.jp](mailto:support@b-jin.jp)

- \* 上記のビジネス人材育成センター（旧キャリアパス支援室を統合）では若手研究者やポスドク、大学院生を対象に、就職面談、ビジネスセミナーの実施、長期インターンシップの斡旋などを行っています（対象は留学生に限りません）。

■ 日本留学を終えて帰国した留学生に教育・研究上のフォローアップをしたい

独立行政法人 日本学生支援機構ホームページ

<http://www.jasso.go.jp/exchange/follow.html>

- \* 留学フォローアップのプログラムについて情報を提供しています。帰国した留学生に向けてニュースを配信しています。

## あとがき

このハンドブックは、高等教育研究センターが名古屋大学の教員有志による留学生研究会を立ち上げ、この研究会で議論を重ねながら制作したものです。印刷にあたっては、平成22年度国際化拠点整備事業（グローバル30）の予算措置を受けました。

日本の大学では留学生に対する支援はさまざまな形で進められており、留学生の異文化適応に関する研究もさかんに行われています。しかし、留学生の受け入れ責任者であり、彼らに対して授業や研究指導を行う大学教員に対する支援には、残念ながらこれまであまり注意が払われてきませんでした。留学生を受け入れた経験のない教員や教育経験の浅い若手教員にとって、指導教員として留学生を受け入れることは心理的・時間的に大きなプレッシャーとなります。同時に、留学とくに大学院留学においては指導教員との信頼関係がその成功の鍵を握るといっても過言ではありません。大学は留学生を受け入れている教員をもっと積極的かつ組織的にサポートしなければなりません。本ハンドブックが名古屋大学教員のみならず、少しでもお役に立てれば幸いです。

このハンドブックを制作するにあたり、多くの方々にお世話になりました。2010年8月に実施したアンケート調査では、夏休み期間中にもかかわらず多くの本学教員が快く協力していただき、留学生の受け入れに関して本学にどのような具体的課題が存在するののかを知ることができました。また、国際学生交流課、国際企画課、文系教務課の職員の方々からは、留学生に関する受け入れ実務、各種データ等についていろいろ情報提供いただきました。何人かの学内教員有志や高等教育研究センターのスタッフからは、本ハンドブックのドラフト段階で貴重なコメントをいただきました。記して御礼申し上げます。

本ハンドブックの内容に関する責任は編者にあります。修正・追加すべき点がありましたら、編者の所属先である高等教育研究センターまでご一報いただければ幸いです。みなさまのご意見を反映させて、継続的に改訂を進めていきたいと考えております。

編者 近田 政博  
高等教育研究センター准教授  
連絡先：info@cshe.nagoya-u.ac.jp

編者

近田 政博 名古屋大学高等教育研究センター

執筆者（名古屋大学留学生研究会：50音順）

高木ひとみ 名古屋大学留学生相談室\*

田中 京子 名古屋大学留学生センター

近田 政博 名古屋大学高等教育研究センター

土井 康裕 名古屋大学大学院経済学研究科・経済学部

松浦まち子 名古屋大学留学生相談室\*

渡部 留美 名古屋大学国際交流協力推進本部

\*名古屋大学留学生相談室は、平成23(2011)年4月より留学生センターのアドバイジング・カウンセリング部門として改組されます。

名古屋大学教員のための  
留学生受け入れハンドブック

平成23(2011)年3月20日発行

発行：名古屋大学高等教育研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学東山キャンパス文系総合館5階

印刷：株式会社荒川印刷